

2024 亜細亞大学 テニス部

亜細亞大学



TEAM GUIDE
チームガイド
&
国際大会状況
報告
REPORT



©KASA(AS)

新1号館



学生生活に関する各事務室や教員の研究室、会議室などがある校舎です。

2号館



ガラス張りの外観がひときわ目立つ校舎。中・大規模教室と、屋上庭園があります。

3号館



演習や語学の授業で使われる小規模教室と、講義用の大教室、行動があります。

5号館



大小24の教室、授業の合間には多くの学生が行き交い、ベンチで談笑する光景も。

7号館



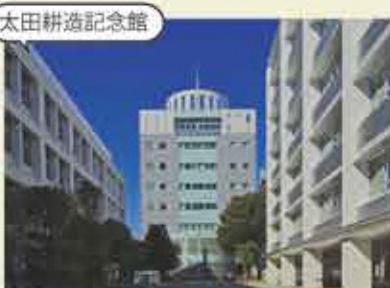
南門に接した教室メインの校舎。正面にはコミュニティバスの停留所があります。

8号館(国際交流会館)



国際交流センター、附置機関、大学院生用の自習室、留学生別科の教室などがあります。

太田耕造記念館



約68万冊の蔵書と最新設備を備えた図書館、学園史展示室などで構成されています。

ASIA PLAZA



食堂とグループ学習スペースを擁する、多目的施設です。

体育館



競技用のフロアのほか、柔道場、剣道場、リング、トレーニングセンターなどがあります。

Hinode Campus

日の出キャンパス

グラウンドやテニスコートを備する総合運動場をはじめ、一般の方も利用出来るトレーニングセンターがあります。最寄り駅はJR五日市線「武藏引田」駅。



部活動紹介

日本テニスの育成には大きな課題があります。ひとつは18歳以上の強化です。多くのジュニアや高校生は、指導者や親とともに夢と希望をもってテニスに取り組んできています。テニスは決して18歳までに完成することができない、奥の深いスポーツですが、それを18歳以上でどのように磨くかが日本テニス最大のテーマのはずです。ということは、大学の役割は非常に大きく、特に重要なのが指導力です。選手が挑戦するだけでは身につかないもの、または、それ以上のものを大学が提供できなければ意味がありません。

次に重要なのが環境の強化です。関東の大学では春闘（関東学生）、夏闘、新進戦、リーグ戦と4つの大会のみです。全国大会はインカレ、インカレ・インドア、大学王座の3つの大会です。これらの大会は同世代だけが参加します。しかし、実は戦う相手はもっと別の世界にもいます。知っている人と戦うことよりも、まったく知らない人と戦うことがどれだけ人をワクワクさせるでしょうか。大学4年間であらゆる世代やレベルや地域を超えたテニスを体験し、挑むことほど、素晴らしいものはありません。自分が今までつくり上げたテニスを試す“最高ステージ”は、大学テニスの世界以外にもあるのです。

当然、「負け」や「失敗」が付きまとひ、自分を見失うこともあることでしょう。しかし、「負け」を嫌い、「失敗」をたくさんしない学生が、いつどうやってそこから這い上がる精神を身につけることができるでしょうか。私は学生こそ

「失敗することが仕事」だと思っています。そこからしか創意工夫や独創性は生まれてきません。

能力があるにもかかわらず、挑戦を恐れ、安全で安定な道にすがっている精神のテニスには、困難を乗り越える力が備わりません。いつかラケットを置いたときに、就職したときには、テニスの技術や記録だけではなく、未知を乗り越えてきた精神力であってほしいのです。

私はその一環として、アメリカの大学との対抗戦、韓国体育大学との交流合宿を行なってきました。1月のオーストラリアン・オープン観戦では「これが本物」と感じることができます。そして、いまは春に男女の国際テニス大会（1万5千人）を学内で開催しています。学生主体のこの大会は、まさに選手しか経験のない学生たちに、テニスへの取り組み方から、技術、体力、精神力、戦術、歴史、経済、経営、哲学にいたるすべてを、外国選手やスポンサー、観客など、テニスにかかわる人々から学ばせてもらっています。国際大会は最高のコーチングになっているのです。

初めは国際大会レベルのパワー・スピードや意識の違いに驚き飛ばされていたものの、徐々にそれに近づくための行動が起こってきました。「機会」が学生を育てていることを実感します。国際大会という環境は学生に大学テニスに明け暮れる=守りの伝統を、攻める「機会」へと発展させていることは間違いありません。

私は亜細亜大学に奉職して37年になりますが、冒頭の理想には懸念ながらまだ到達しません。それでも、これまで

理想に向かっていっしょに闘った多くの学生たちや卒業生には感謝しています。永遠にチームは完成できないかもしれません。しかし、向上に情熱のある学生に出会ったときには、自分の未来を信じて戦う意思がある学生と出会ったときには、いっしょに青春時代を聞いたい。私は自らの可能性を信じる本気の選手を歓迎します。

テニスは18歳までには決して完成しません。
自らの可能性を信じて未来に向かって挑戦する本気の選手を歓迎します。

堀内昌一

（亜細亜大学教授／テニス部総監督）



チーム紹介

私たち、令和6年度亜細亜大学硬式庭球部は1部昇格を目指に日々練習を重ねています。昨年は2部からのスタートとなり1部昇格を目指し全員で挑みましたが、結果として2部3位という形で終了しました。昨年の悔しさを忘れずに今年は1部昇格を達成できるよう、日々精進していきます。しかし、亜細亜大学には新しく新調したグリーンセットのハードコートが10面、當時使用可能なトレーニングセンター、400メートルトラックや新設した



私たちアジア女子ローンテニス部は、現在関東リーグ1部に所属しています。毎年10月に行われる全日本大学対抗王座決定試合で優勝することを目指して日々活動をしています。

昨年は早稲田大学や慶應義塾大学、筑波大学をはじめとする強豪校がいる関東リーグ戦を2位で通過し、王座の舞台に立つことができました。王座では決勝戦、筑波大学に惜しくも敗戦してしまいましたが、全国で2位という結果



ランニングコースや露天練習場といったテニスにとことん打ち込める環境と、堀内昌一監督をはじめとしたスタッフの方々の指導が毎日受けられるという、他の大学にはない環境でテニスに打ち込むことが出来るので強くなれる環境であることは間違いありません。

私は高校時代、インターハイや全日本ジュニアなどの全国大会には一度も出場できませんでした。そんな私が亜細亜大学に入り、インターハイで上位だった選手達に勝ち、インカレ出場を決めることが出来たのもこの素晴らしい環境があり、諦めずに努力し続けた結果です。もちろんテニスだけではありません。1人の人間として成長し、部活という組織から出た時にも大人として自立できるように報告連絡相談などの一般常識は身につくまで指導を受けることができます。

他にもお伝えしたいことは多くありますが、実際に目の出キヤンバスに来て肌で体感した方が亜細亜大学のテニス部の魅力が伝わると思います。一緒に熱い4年間を過ごしましょう。

橋本 洸矢

(亜細亜大学硬式庭球部主将/4年) ●関東リーグ2部3位

を残すことができました。優勝があと一步まで近づき、掴み取ることができなかった悔しさを糧に今年度こそはという思いで日々、練習やトレーニングに励んでおります。

現在、亜細亜大学には10面のハードコート、本格的なトレーニングセンター、トラックフィールド、ランニングコースなどテニスに打ち込むには最高の環境が整っています。また、堀内昌一先生をはじめとする、森 稔司監督、長久保大樹監督、高橋 卓コーチ、安井愛乃コーチ、今泉智仁フィジオ、長久保紀恵トレーナーなどスタッフの方々の指導の下、他の大学にはない環境でテニスをすることができます。

私はこのチームに所属していることを誇りに感じています。テニスだけではなく人としても成長できる場が亜細亜大学にはあるからです。また、同じ目標に向かって共に成長し、切磋琢磨しあえる仲間もいます。学生全員が高い志を持ち、毎日励んでいます。是非、亜細亜大学で共に戦いましょう。

齋藤 瑠奈

(アジア女子ローンテニス部主将/4年) ●関東リーグ1部2位

入学案内 スポーツ・文化活動入試のご案内 (令和7年度)

亞

細亞大学のスポーツ・文化活動入試は「経営学部経営学科」「経済学部経済学科」「法学部法律学科」「国際関係学部国際関係学科」「国際関係学部多文化コミュニケーション学科」「社会学部現代社会学科」の5学部6学科があります。

テニス部は2024年の今年は、上記の5学部6学科より選択してもらえることとなっております。テニス

部には「経営学部」「経済学部」「法学部」「国際関係学部」「都市創造学部都市創造学科」の学生が在籍しています。

私たちの中には、スポーツ・文化活動入試だけでなく一般入試やAO入試、指定校推薦や公募推薦などで入部した学生もいます。みんなテニスが大好きな学生ばかりです。部員一同、みなさんの入部をお待ちしています。

亞細亞大学が求める学生像

募集するスポーツの技能に優れた将来性のある者

スポーツ・文化活動入試の詳細は亞細亞大学HPにてご確認ください



亞細亞大学

〒180-8629 東京都武藏野市境5丁目8番
入試・アドミッションセンター TEL.0422-36-3273

[https://www.asia-u.ac.jp/
admissions/exam/comprehensive/sports.html](https://www.asia-u.ac.jp/admissions/exam/comprehensive/sports.html)
e-mail:nyushi@asia-u.ac.jp



亞細亞大学テニス部の寮(男女別)

ドーミー立川北(男子・女子寮) JR中央線 立川駅 徒歩約10分、自転車約5分

- キッチンコーナー IHコンロあり
- ランドリー 乾燥機あり
- 駐輪場あり
- 大浴場 18:30～翌日8:30
※女子は16:00～20:00、日曜日は使用不可
- プライベートシャワー 24時間利用可能
- トレーニングルーム
- 門限 24:00
- 食事
朝 6:30～8:30(土曜日は6:30～10:30)
夜 18:30～23:30(土曜日は18:30～22:00)
※朝夜共に、日曜日、祝祭日、第5土曜日は食事が出ない

～体育会奨学寮制度～

初期費用

(例)ドーミー立川北

- 保証金 50,000円(初回のみ)
- 入館料 150,000円→100,000円
- 年間管理費 226,000円→0円

※毎年更新時に上記の金額が発生します。

月額費用

○寮費(朝夕込み)80,100円→71,200円

- 月間管理費 6,000円

※通信整備費 月々3,960円(税込み)

※電気基本料 月々858円(税込み)+使用料



ドーミー高尾(女子寮) JR中央線 高尾駅 徒歩約3分

- キッチンコーナー IHコンロあり
- ランドリー 乾燥機あり
- 駐輪場あり
- 大浴場 17:00～翌日9:30
- トレーニングルーム
- 学習室
- 門限なし
- 食事
朝 6:30～8:30(土曜日は6:30～10:30)
夜 18:30～22:00(土曜日は18:30～21:00)
※朝夜共に、日曜日、祝祭日、第5土曜日は食事が出ない

～体育会奨学寮制度～

初期費用

(例)ドーミー高尾

- 保証金 50,000円(初回のみ)
- 入館料 130,000円→100,000円
- 年間管理費 186,000円→0円

※毎年更新時に上記の金額が発生します。

月額費用

○寮費(食事込み)73,000円→71,200円

- 月間管理費 6,000円

※通信整備費 月々3,960円(税込み)

※電気基本料 月々5,500円(税込み)



日の出キャンパス 紹介

ここがテニス部のホームです!

最寄り駅はJR五日市線「武蔵引田」駅です。ここにはテニスコートをはじめ、野球場、サッカー場、陸上トラックなど、スポーツ関係の研究施設があります。屋外競技のクラブは主にここで練習をします。



テニスコート

2023年に新設されたばかりのGreenSet(ハードコート)が10面あります。
面数が多いので、少人数で効率よく充実した練習ができます。(全塗ナイター完備)



トレーニングセンター

機材が整っておりますので、学生はいつでも自由に利用することができます。夜遅くまで勉強している学生もいます。



部室棟

2022年夏に新設されました。体験会や活動する部活動の教室や、事務室、トレーニングセンターのほか、ミーティングルーム・分析ルームがあります。ミーティングルームでは全体ミーティングを行なはか、テレビやスマートフォンを使って映像の確認や監督の講義を行います。



日の出
キャンパス
案内図



日の出キャンパスが
リニューアルしました!!

- テニスコート10面(ハードコート)
※2023年1月完成
- 1kmランニングコース
※2023年4月完成
- トレーニングセンター・部室棟・室内練習場
※2022年8月完成



【アクセス】

武蔵引田駅まで

・新宿駅から約90分、「東京駅」から約100分(中央本線、青梅線、五日市線利用)

・大宮駅から約120分(東京駅、上越線、八高線、五日市線利用)

・武蔵引田駅から日の出キャンパス[ASA SPORTS CENTER]まで

・武蔵引田駅の改札口は北口(1番)、下車後、駅舎まで向かい、北(左)に向かって徒歩7分

【所在地】

〒190-0162東京都多摩郡日の出町平井1485 TEL 042-597-0714

学長 水綱 憲悟
 (亞細亞大学)

テニスを通して
 世界とつながる。
**その結節点に
 亞細亞大学
 テニス部があります。**



テニスの語源は、フランス語の「Tenez (トゥネス)」(刺す)というのが通説で、もともとは手のひらで打っていた競技であったものが、のちにラケットを使うようになったそうです。またテニスは小学校入学前からプレー可能で、しかも80歳を超えて十分楽しめる競技といわれています。このため世界でのテニスの競技人口は約1.1億人。バスケットボール、サッカー、クリケットに続いて4番目で、個人競技としては最多というデータがあります([Half-Time] <https://halftime-media.com/sports-market/tennis-japan-1/>)。それほど広い競技場を必要とせず、道具も限定的であることが普及の基礎にあるのかもし

れません。

こうした幅広い歴史を背景として、本学テニス部も国際大会を主催し、また時に外国選手との競技機会も設けてきたとかがってあります。学生の皆さんにとっては、国際的な交流の中で、自分自身の力量を見極め、さらなる成長のきっかけを掴む機会となってきたものと思えます。学生スポーツの最大の目的が、選手たちが人間として成長していく場面を作ることにあるということから考えれば、本学テニス部はまさにそれを実現しているものといえるでしょう。それは同時にアジアおよび世界で活躍する「創造的人材の育成」という本学のミッション達成にもつながるものです。

ところで、2019年末から世界を席巻した新型感染症もほぼ過去のものとなり、社会の様々な場面で対面での交流が当然となっています。スポーツ活動においても、練習も試合も観戦も、ほぼ以前のように自由に行われるようになりました。一方、本学日の出キャンパスではナイター設備を備えた素晴らしいテニスコートが完成しました。もはや、成果をあげられない言い訳はほはなくなったと言つてもよいでしょう。この環境を生かして、充分に練習し、また多くの試合に臨み、世界につながる亞細亞大学テニス部の姿を今以上に世に示すことを大いに期待しています。



宇田川 裕

(学校法人里崎聖学園事務部長)

社会に有為な人材の輩出、
社会貢献に取り組み、
“世界に開かれた
テニスチーム”を目指します。

東京大学テニス部は、50年を超える歴史と伝統。輝かしい戦績や、多方面で活躍される卒業生の存在だけではなく、他には実現できない画期的な練習プログラムや教育システムをもって運営され、常に前進し続けています。

テニスプレーヤーの誰もが、満足できる成果を上げたいと思っていました。ただ、練習によって技術を磨き、単に大会に出場するだけでは、その目的は達成できません。プレーするのではなく人間ですから、全般を鍛えていくことが必要なのです。また、今後の激変する社会環境にあって、大学卒業後は社会人として逞しく生き抜くには、スポーツの技術や理論を通して、思考力、実践力を身につけ、友人と協働ときまままな社会体験によりコミュニケーション能力を養って、人間力を高めることが重要となります。

これを実践するために、私たちもさまざまな実践プログラムを用意しています。まさに、心・技・体を鍛え上げる、人間力の高いバランスのとれた学生育成を行なうのです。

そして、海外遠征や国際テニス大会の運営によって、国際感覚をも磨いてゆくのです。

私たちは、社会に有為な人材の輩出やテニス競技普及等の社会貢献に取り組み、皆さんとともに“世界に開かれたテニスチーム”となることを目指していきたいと思います。



金子 国彦

(学生部キャリアセンター課長)

明るく、爽やかで、個性豊かな
バランスのとれた人間に
成長してほしい。
国際社会に貢献できる
人材育成が目標です。

東京大学テニス部は、スポーツ振興の一環として大学の強化クラブに指定されており、大学テニス界においてトップクラスの戦績を挙げています。これも専門監督、森松、鈴木監督等の熱心な指導による、部員一人一人の日々の努力と、チームとしてのまとまりがこのようないい結果につながったと思います。

本学は、単にテニスが強い大学を目指してはおりません。部員一人一人が社会で活躍できる有為な人材を育成すべく、大学生活においても丁寧な指導を心がけております。特に授業のサポート体制は他大学にないものであります。

同時に生活指導も行い、人格形成においても、明るく、爽やかで個性豊かなバランスのとれた人間に成長していくことを目標としています。

また、大学という教育機関が、世界レベルへの登竜門となる国際テニス大会を主催することにより、本学の使命であるアジア地域を中心とした国際化の取り組みを実践する場となり、国際社会で貢献できる有為な人材の育成を図っております。

人柄がよく、やる気のある者、自分の可能性を感じ、是非とも、東京大学のテニス部にチャレンジしてください。チーム一同、歓迎いたします。

衛藤福吉先生を偲んで

この出会いで始まった

文◎池内基一

「東京大学学長の面接です。帰国したら大学で会おう!」——昭和62年7月、私がジュニア日本代表チームのコートとしてロンドン「ウインブルドン」に遠征していたときにいたいた電話です。

帰国して学長室を訪ねると、衛藤先生はランニングシャツに下駄履きという出で立ちで私を迎え、大学改革についての思いをぶつけました。そこで私も、生意気に自分の思いをぶつけました。日本テニス界は18歳以上の強化が課題であること、大学での指導の必要性、そして世界挑戦——当時の私は26歳です。

衛藤先生は、私の話をにこにこしながら聞いてくれたり、こう言いました。「テニスはどこへ行っても誰とでも友達になれるスポーツ」「誠実な人柄のテニス選手は、どんな仕事をもひとりでやり抜くことができるよ」と。衛藤先生はテニスが大好きで、自ら体験されて、それを知っていたからこそ言葉でした。

スポーツを強化する目的が、宣伝や経済効果を考えての手段となることが少々ない世の中で、衛藤先生の純粹な考え方には私は惹かれ、東京大学を選ぶのにもう時間はいりませんでした。あれから37年が経ち、あのときがなあつたら……いまの私もテニス部もありません。だから衛藤先生、心からありがとうございます。いつも見守っていてください。

亜細亜大学テニス部 指導スタッフ紹介

ティレクター兼テクニカルコーチ

教え子のコーチ肆に囲まれて、指導体制はとても充実しています。その指導にせまることなく、自立した学生、選手、指導者を目指しています。



堀内昌一總監督

(亜細亜大学教授 テニス部監督)

全体を統括し、学生がテニスに集中して競技力を向上できる環境を整えている。これまで育ててきたOB、OG複数名をコーチとして迎え、指導者が常駐するほか、遠征に備える準備もある。そのほか、トレーニングコーチ、メンタルコーチ、メディカルスタッフも揃え、あらゆる角度から学生をサポートする。



森 稔詞

(亜細亜大学スポーツ振興センター所属)

大学強化第一期生が母校に戻り、学生に「テニスの精神」を叩き込む全力指導をしている。週6日男女部署を指導。

1980年1月15日東京都世田谷区に生まれる。1992年に中央大学付属高校に入学、就職は川崎競艇ペーストBだった。日本体育大学に入學し3年生のときアーラムのニック・ボロディーに留学、その後New Mexico Military Institute大学に留学。1992年には全米短期大学テニス選手権でベスト8に入った。陸上競技のインカレでベスト8に入り、翌年の開催学生では優勝。その後、ユニバーシアードに進出。日本体育大学を卒業後、1997年に亜細亜大学の衛藤謙治先生と出会い、テニス部の監督を引き受けた。しかしそのまま亜細亜大学は男子2部女子3部、共に最下位であった。1998年、監督の指導力に感謝され、前年のリチャード・ゼビオの園田哲二さんや山崎宏さんをはじめ、高田亮さんらの恩師の力で、アーラムの武蔵が準優勝に入り、亜細亜大学の快進撃が始まった。ATP 5.57位/D 71位、JOP 5.17位/D 1位。



高橋 隼

男子部員を中心に指導。選手経験に基づいた戦術や理論のコーチングを行っている。

たかはしゆん 1987年9月生まれ。東京都出身。02年全国中学テニス選手権優勝4位。03年全日本ジュニアテニス選手権優勝出場。05年全国高校競技選手権ベスト8、種別3位。06年-08年全日本学生テニス選手権出場。ブリヂストンスポーツ入社。2013年ASCA(アジアスポーツクラブ)創設。現在はASCA(アジアスポーツクラブ)にてジュニア育成をしながら学生の指導にあたる。



長久保 大樹

現役プロのツアーコーチにも参画。その経験を活かした指導から学生が厚い信頼を置いている。また、トレーニングの指導も行う。

ながくぼ だいき 1989年7月19日生まれ。学生時代は全国種ベスト4、新潟種優勝、インカレ種ベスト4、インカレシニア種ベスト3、全日本学生テニス選手権優勝出場。ニーケ全日本テニス選手権優勝ベスト8に入る。現はASCA(アジアスポーツクラブ)でコーチをしながら学生のコーチング&トレーニングを指導している。

プレイヤーコーチ



熊坂拓哉



堀内竜輔



松田美咲

亜細亜大学を卒業し、プロ転向した卒業生。国内や海外の試合を周りながら、亜細亜大学でも練習を頻繁に行い、学生とヒンティングしながらアドバイスを送る。

テクニカルコーチ

**安井愛乃**

女子部員を中心に指導。自身の選手経験を活かし、学生に寄り添ったコーチングを行う。

伊豆いよいの◎2000年10月29日生まれ。愛知県出身。全国高校総体団体ベスト4、接戦ベスト4、夏間後ベスト4、インカレ後ベスト4。現在はASCAアジアスポーツアカデミーでコーチをしながら学生指導に携わっている。

コンディショニング担当

**今泉智仁**

選手の治療・コンディショニングを担当。豊富な経験から選手に寄り添った的確なアドバイスを送る。

いよいすみやひひと◎1972年10月1日生まれ。愛知県出身。化京中医薬大学医学部卒業後、国内で鍼灸師の資格を取得。2007年よりテニスのツアーレーナーとしてプロに帯同し、体のケアとコンディションを整える。選手と一緒に良い状態でコートに立たせることに尽力することをモットーにしている。

コンディショニング担当

**猪飼美里**

選手の治療・コンディショニングを担当。亞細亞大学国際テニストーナメントのオフィシャルトレーナー。

いよいすみよしと◎1983年9月28日生まれ。東京都出身。日本体育大学卒業後、整骨院で働きながら、柔道整復師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・アスレティックトレーナー(ASPO-AAT)の資格を取得。2017年からテニス競技に開かれり、大谷オフィシャルトレーナー・女子ナショナルトレーナー・女子日本代表チームトレーナー・プロ選手養成トレーナー等で、現在フリーランスのケガトレーナーとして活動している。

フィジカルトレーナー担当

**立山紀恵**

週に1回、トレーニングを指導。自身もアスリートで培った経験と大学院時に取得した資格をもとに部員たちに必要なトレーニング計画を考え、指導を行っている。

たらやま・さとこ◎1990年7月7日生まれ。鹿児島県出身。筑波大学卒業後、メディカルフィットネスクラブにて勤務しながら陸上競技の100m・200mを専門に実業田舎手として活動。インカレや国体などの全国大会にて優勝経験あり。選手引退後は筑波大学大学院に進学し、アスレティックトレーナー(ASPO-AAT)とストレングス&コンディショニングスペシャリスト(NSCA-CSCS)の資格を取得。大学院修了後、公益財團法人吉川記念テニス研修センターにてストレングス&コンディショニングコーチとして2年間勤務。現在は吉川のSILEO(シレオ)Care & Trainingにてパーソナルトレーナーとして勤務しつつ、アスリートへアンドコンディショニングやトレーニング指導にあたっている。

学内スタッフ

**宇田川 裕** (ヤマハオルガニゼーション)

亞細亞大学テニス部OBで、男子副部長である。現在は亞細亞大学職員として、学校の仕事もしながらテニス部の運営や就職の手伝いをしている。亞細亞大学国際大会事務局長。

**金子国彦** (亞細亞大学学生キャリアセンター講師)

亞細亞大学テニス部OBで、女子副部長である。現在は亞細亞大学職員として、テニス部の運営、授業のサポート、就職活動の支援などを行なっている。

部員名簿

①役職 ②出身地 ③出身高校 ④生年月日 ⑤テニス歴 ⑥尊敬する人
⑦趣味 ⑧好きな言葉 ⑨主な戦績 ⑩目標 ⑪自己PR

橋本 洸矢

[主将] 4年

- ①主将
- ②神奈川県
- ③津田学園高等学校
- ④2002年7月15日
- ⑤16年
- ⑥ラファエル・ナダル
- ⑦散歩
- ⑧青葉選手
- ⑨新進単ベスト4、春闘複ベスト8
- ⑩インカレベスト8
- ⑪何事も諦めず全力で頑張ります。



座馬 大

4年

- ①スカウト
- ②岐阜県
- ③岐阜商業高等学校
- ④2002年7月22日
- ⑤14年
- ⑥難波拓哉選手
- ⑦登山
- ⑧一石二鳥
- ⑨春闘橋本校出場
- ⑩インカレベスト16
- ⑪何事にも一生懸命、楽しくやります!



高山 秀汰

3年

- ①学生コーチ
- ②埼玉県
- ③浦和学院高等学校
- ④2003年7月29日
- ⑤11年
- ⑥レイシ・ヒューリット
- ⑦サイクリング、路トレ、スイーツ作り
- ⑧「友情・努力・勝利」⑨新進単ベスト32
- ⑩「インカレ優勝」「王座奪還」
- ⑪やると決めたことはやり続けます。目標を達成できるよう頑張ります。



谷 嶺太

[副将] 4年

- ①副主将
- ②東京都
- ③明治学院高等学校
- ④2002年10月23日
- ⑤15年
- ⑥ラファエル・ナダル
- ⑦競書
- ⑧成長
- ⑨インカレ予選単出場、春闘複ベスト8
- ⑩インカレ優勝
- ⑪目標を達成できるように全力で頑張ります。



尹 準熙

4年

- ①学生コーチ
- ②韓国(ソウル)
- ③柳川高等学校
- ④2001年6月8日
- ⑤12年
- ⑥ロジャー・フェデラー
- ⑦読書、音楽の成長
- ⑧新進単本校出場
- ⑨インカレ優勝
- ⑩今年は自分が納得できる結果を出すように頑張りたいと思います。



佐々木 康大

3年

- ①学生コーチ
- ②新潟県
- ③相生学院高等学校
- ④2003年8月17日
- ⑤12年
- ⑥大谷翔平(バスケット)
- ⑦勇気は一瞬、自信は一生
- ⑧春闘単本校出場
- ⑨インカレベスト4
- ⑩楽しく真剣に頑張っていきます。



木塚 真彰

[主務] 4年

- ①主務
- ②東京都
- ③松が谷高等学校
- ④2002年9月24日
- ⑤19年
- ⑥羽根
- ⑦音楽鑑賞
- ⑧体力には限界がある
- ⑨でも、脳には限界はない
- ⑩春闘単2次予選敗退
- ⑪単複インカレ出場
- ⑫もっと努力し続けていきます。



松本 直社

4年

- ①IT・広報 ②大阪府
- ③大阪産業大学附属高等学校
- ④2002年5月9日
- ⑤15年
- ⑥松浦一貴・サイクリング
- ⑦ドラム、登山、読書
- ⑧結果の出ない努力は努力とは言わない
- ⑨春闘単二次予選敗退⑩インカレ・インカレ
- ⑪アンドア出場⑫水泳で選手としてずっと
- ⑬泳ぎてきましたが、テニスでも活躍して
- ⑭水泳用人物になります! テニスが大好き。



小倉 諭行

3年

- ①コートキーパー
- ②東京都
- ③日向日本大学高等学校
- ④2003年9月16日
- ⑤17年(1)豊治さん
- ⑥MMA(総合格闘技)・スニーカー集め
- ⑦挑戦性
- ⑧春闘単複本校出場、夏闘複ベスト32
- ⑨インカレ上位
- ⑩頑張ります。押忍。



齋藤 晶斗

4年

- ①スカウト ②宮城県
- ③東京学館新潟高等学校
- ④2002年5月9日
- ⑤15年
- ⑥アレックス・デミー
- ⑦服を買う、映画鑑賞
- ⑧不撓不屈
- ⑨春闘単2次予選敗退
- ⑩インカレベスト8
- ⑪今年こそ良い年にできるように頑張ります。



宮崎 創

4年

- ①コートキーパー
- ②愛知県
- ③中京大学財團中京高等学校
- ④2002年1月9日
- ⑤13年(1)平塚太一
- ⑥フットサル
- ⑦表裏一体
- ⑧春闘1次予選敗退
- ⑨インカレ出場
- ⑩何事も優しくにこだわり、バックハンドの左手はそえるだけ。



鈴木 克俊

3年

- ①財務
- ②神奈川県
- ③日本大学三島高等学校
- ④2003年8月24日
- ⑤17年
- ⑥ニックキリオス選手
- ⑦綺麗な景色を見る
- ⑧あせば成る
- ⑨夏闘単本校出場⑩インカレ上位
- ⑪全力でやり切ります。



林 穂高

3年

- ①地元②東京都
③大成高等学校
④2003年10月29日
⑤9年
⑥矢野洋、平本源
⑦スケートボード、
MMA競技、フィジ
ク競技
⑧努力は天才を超える
⑨夏闘争本戦出場、春闘・新進撃本戦
出場
⑩インカレ上位(自分らしくやりきります)



雨森 匠哉

3年

- ①IT・広報
②福井県③金沢駒
谷高等学校
④2003年11月2日
⑤7年
⑥平野歩夢
⑦ギター
⑧興味の知
り春闘争1次予選敗退
⑨インカレ出場
⑩反復、繰続、丁寧、モスローガンの元が
んばります!



斎藤 優真

2年

- ①スカウト
②青森県
③東陽高等学校
④2004年10月1日
⑤6年
⑥西岡良仁
⑦ニュースを見ること
⑧謔諧笑歩
⑨新進撃本戦出場
⑩インカレベスト8
⑪謔諧笑歩、気合のテニスで勝ち続けま
す!



真中 翔楊

3年

- ①スカウト
②茨城県
③足利大学附属高
等学校
④2003年8月4日
⑤10年
⑥氏原将先生
⑦食べるごと
⑧笑顔
⑨新進撃本戦ベスト8
⑩インカレ優勝
⑪努力で誰にも負けないよう頑張ります!!



加藤木 優人

3年

- ①IT・広報
②東京都
③埼玉平成高校
④2003年12月27日
⑤9年
⑥中島泰祐コーチ
⑦映画鑑賞
⑧never give up
⑨夏闘争本戦出場
⑩インカレ上位
⑪全力で走り抜きます。



辻 壮太郎

2年

- ①コードキー/バー
②東京都
③田無高等学校
④2004年6月5日
⑤7年
⑥イチロー
⑦謔諧
⑧置かれた場所で咲
きなさい
⑨春闘争二次予選敗退
⑩インカレ出場
⑪新入生として元気いっぱい頑張ります!!



松元 翔一朗

3年

- ①スカウト
②鹿児島県
③佐土原高等学校
④2003年8月13日
⑤6年
⑥メドベージュフ
⑦音楽鑑賞・ゲーム
⑧努力を愛せ
⑨夏闘争2次予選敗退
⑩インカレ出場
⑪チームに貢献できるように頑張ります。



倉中 陽大

3年

- ①学生コーチ
②鹿児島県
③田無高等学校
④2003年4月3日
⑤10年
⑥寺坂拓哉
⑦カラオケ
⑧謔諧
⑨春闘争1次予選敗退
⑩インカレ出場
⑪4年間頑張ります。



桶谷 圭太

2年

- ①和歌
②群馬県
③共愛学園高等学校
④2005年2月4日
⑤7年
⑥アリアシム
⑦映画
⑧努力無くして力なし
⑨春闘争一次予選敗退
⑩インカレベスト8
⑪やってやります



二條 昂佑

3年

- ①IT・広報②香川県
③高松北高等学校
④2003年11月30日
⑤13年⑥山岡泰輔
選手⑦プロ野球を見
ること、音楽を聴くこと
⑧良い時はど講道に
悪い時は笑顔で
⑨春闘争本戦出場、夏闘争本戦出場
⑩インカレ、大学三度出場
⑪全力で一生懸命頑張りますよろしくお
願いします!!



斎藤 白羽

2年

- ①IT・広報
②千葉県
③東京学館船橋高
等学校
④2005年2月9日
⑤10年
⑥及川武士
⑦音楽鑑賞
⑧友愛
⑨春闘争一次予選敗退
⑩インカレ出場
⑪目標を達成できるように頑張ります。



佐々木 聖樹

2年

- ①スカウト
②神奈川県
③横手高志高等学校
④2004年9月16日
⑤7年
⑥アルカラス
⑦映画鑑賞
⑧ガラング
⑨春闘争二次予選敗退
⑩インカレ出場・全日本選手権出場
⑪4年間で自分の目標しているテニスを
達成できるように頑張ります。



部員名簿

①役職 ②出身地 ③出身高校 ④生年月日 ⑤テニス歴 ⑥尊敬する人
 ⑦趣味 ⑧好きな言葉 ⑨主な戦績 ⑩目標 ⑪自己PR

観野 凌雅

2年

- ①学生コーチ
- ②北海道
- ③帯広北高等学校
- ④2004年12月27日
- ⑤12年
- ⑥野口莉央
- ⑦音楽・映画鑑賞
- ⑧不拘不屈
- ⑨春闘権ベスト32
- ⑩日本一
- ⑪日本一取ります。



河野 史門

1年

- ①学生コーチ
- ②千葉県
- ③東京学館浦安高等学校
- ④2005年10月25日
- ⑤8年
- ⑥カルロス・アルカラス
- ⑦卓球
- ⑧It's not over until I win
- ⑨関東ジュニア出場、インターハイ権ヘスト16位インカレベスト8
- ⑩好きな食べ物はマグロで、嫌いな食べ物はツナです。



下竹 大翔

1年

- ①スカウト
- ②鹿児島県
- ③鹿児島高等学校
- ④2005年9月7日
- ⑤10年
- ⑥大谷翔平
- ⑦音楽を聴くこと
- ⑧七軒八起
- ⑨九州ジュニア複出場
- ⑩インカレベスト8
- ⑪薩摩人らしくがんばります。



富田 一星

2年

- ①学生コーチ
- ②群馬県
- ③高崎商科大学付属高等学校
- ④2004年8月17日
- ⑤7年
- ⑥野沢ひろし
- ⑦商業のクローゼット探し
- ⑧寿司・春闘二次予選敗退
- ⑨ATPランカー
- ⑩スライスでも勝てますか?



永田 知洋

1年

- ①ITアーティスト
- ②神奈川県
- ③光明学園相模原高等学校
- ④2006年1月16日
- ⑤8年
- ⑥鶴野凌雅
- ⑦食べる
- ⑧明日は明日の風が吹く
- ⑨なし
- ⑩インカレ出場
- ⑪正常に自分をpushしていきます



宮嶋 一幹

1年

- ①ゴートキーパー
- ②東京都
- ③東京学館浦安高等学校
- ④2005年4月26日
- ⑤9年
- ⑥バク・ジョビッチ
- ⑦音楽鑑賞
- ⑧初志貴樹
- ⑨全国選抜団体出場
- ⑩インカレ出場
- ⑪自由なテニスがしたいです



高橋 涼太

2年

- ①財務
- ②岩手県
- ③岩手高等学校
- ④2004年7月17日
- ⑤6年
- ⑥大谷翔平
- ⑦ディズニー映画・音楽鑑賞
- ⑧TOP
- ⑨春闘二次予選敗退
- ⑩インカレ出場
- ⑪インカレ上位入賞を目指して頑張ります。



平井 健太

1年

- ①秘書
- ②千葉県
- ③東京学館浦安高等学校
- ④2005年11月29日
- ⑤11年
- ⑥松岡修造
- ⑦映画鑑賞、読書
- ⑧あせば成る
- ⑨全国選抜高校テニス大会2回目
- ⑩インカレ出場
- ⑪得意なフリードドライブからの攻撃的なテニス



高橋 栄

1年

- ①副務
- ②茨城県
- ③つくば秀英高等学校
- ④2006年1月21日
- ⑤9年
- ⑥坂野達也
- ⑦映画鑑賞
- ⑧而今生涯
- ⑨茨城県西地区大会3位
- ⑩インカレ出場
- ⑪一勝でも多く勝てるよう頑張ります。



宮城 楓也

2年

- ①広報
- ②沖縄県
- ③沖縄工業高等専門学校
- ④2004年8月29日
- ⑤7年
- ⑥ロジャー・フェデラー
- ⑦映画鑑賞
- ⑧継続は力なり
- ⑨春闘一次予選敗退
- ⑩インカレ出場
- ⑪目標達成のために粘り強く頑張ります。



野口 礼斗

1年

- ①スカウト: 城玉尚
- ②浦和学院高等学校
- ④2005年11月18日
- ⑤11年
- ⑥中村聰利先生
- ⑦歌を歌ったり、踊ること
- ⑧人生は楽しむためには
- ⑨全国選抜出場、インターハイ団体戦出場
- ⑩インカレベスト8
- ⑪何事にも全力で取り組みます。



水島 秀

1年

- ①IT広報
- ②千葉県
- ③東京学館船橋高等学校
- ④2005年11月22日
- ⑤9年
- ⑥西岡良仁
- ⑦音楽を聞くこと
- ⑧みんな違ってみんないい
- ⑨なし
- ⑩単複インカレ出場
- ⑪粘り強く頑張ります。



山上 瑞音

1年

- ①勤務地: 東京都
 ②東京都立昌平高等学校
 ③2005年9月30日
 ④6年
 ⑤銀木病院
 ⑥ゲームをすること
 ⑦優れるな異なれ
 ⑧昌平区大会ベスト16
 ⑨予走されている大会に出ること
 ⑩積極性と向上心を大事に頑張っています。

**新井 万由子**

4年

- ①スカウト
 ②埼玉県
 ③浦和明徳高等学校
 ④2002年9月6日
 ⑤11年
 ⑥大坂なおみ
 ⑦アニメ鑑賞
 ⑧全力
 ⑨春闘権本戦出場、新進軍ベスト32
 ⑩インカレ出場
 ⑪複数インカレに出場できる様、頑張ります。

**児山 心美**

4年

- ①勤務地: 大阪府
 ②慶應義塾高等学校
 ③2002年8月16日
 ④16年
 ⑤豊田真帆
 ⑥車、歌う事、動物と
 ふれあう事
 ⑦姫草穂
 ⑧インカレインドア権ベスト16、新進軍準
 優勝
 ⑨インカレ優勝
 ⑩今年も1年頑張ります。

**齋藤 瑞奈**

(主将)4年

- ①主将
 ②福島県
 ③相生学院高等学校
 ④2002年10月3日
 ⑤10年
 ⑥両親
 ⑦折り紙
 ⑧努力に勝る天才なし
 ⑨インカレ準優勝ベスト32、インカレインドア
 権ベスト16
 ⑩インカレ準優勝ベスト8
 ⑪日々成長出来る様に頑張ります。

**佐久間 向日葵**

4年

- ①勤務地: 福島県
 ②桜の聖母学院高等学校
 ③2003年1月12日
 ④13年春闘
 ⑤ピアノを弾く事
 ⑥努力は必ず報われる
 ⑦インカレ予選権出場、夏闘権本戦出
 場、
 ⑧インカレ出場
 ⑨丁寧に頑張ります。

**井口 紗**

3年

- ①IT・広報
 ②東京都
 ③東京女子学院高等学校
 ④2003年7月1日
 ⑤10年
 ⑥孫正義さん
 ⑦高尾山歩くこと
 ⑧一石二鳥
 ⑨夏闘権本戦出場
 ⑩インカレ出場
 ⑪大学で通勤します、がんばります。

**沼野 菜海**

(副将)4年

- ①勤務地: 新潟県
 ②新潟第一高等学校
 ③2002年4月22日
 ④15年
 ⑤両親と祖父母
 ⑥洋画鑑賞
 ⑦人間とは死ぬまで
 完成な生物である
 ⑧インカレ準優勝ベスト16、インカレインドア
 権ベスト4
 ⑨インカレベスト8
 ⑩初心を忘れず日々精進します!

**高橋 礼奈**

4年

- ①IT・広報
 ②神奈川県
 ③大成高等学校
 ④2002年8月21日
 ⑤16年
 ⑥両親
 ⑦歌うこと
 ⑧可能性は無限大
 ⑨インカレ権ベスト32、新進軍ベスト4
 ⑩王座奪還に貢献すること
 ⑪今の環境に感謝して自分らしく頑張ります!

**小林 千陽**

3年

- ①スカウト: 東京都
 ②慶應義塾高等学校
 ③2004年2月20日
 ④14年春闘
 ⑤音楽を聴くこと、映
 画鑑賞
 ⑥明日は明日の風が吹く
 ⑦春闘権本戦出場
 ⑧インカレ優勝、王座優勝
 ⑨自分らしく全てに明るく取り組み魅けて
 楽しく頑張ります!

**加藤 陽菜**

(主将)4年

- ①主将
 ②神奈川県
 ③横浜学苑高等学校
 ④2003年2月20日
 ⑤13年
 ⑥両親
 ⑦ショッピング
 ⑧感謝
 ⑨インカレ複予選出場、新進軍ベスト16
 ⑩インカレ出場
 ⑪日々成長できるよう一生懸命頑張ります!

**富永 菜**

4年

- ①IT・広報
 ②神奈川県
 ③湘南工科大学附
 隸高等学校
 ④2002年7月30日
 ⑤14年春闘
 ⑥映画鑑賞
 ⑦感謝
 ⑧インカレ権ベスト4、インカレインドア
 権ベスト8
 ⑨インカレ上位進出
 ⑩毎日全力で頑張ります!

**小副川 莉桜**

3年

- ①学生コーチ
 ②千葉県
 ③東京学館船橋
 ④2004年3月15日
 ⑤13年
 ⑥大谷翔平選手
 ⑦読書、お菓子作り
 ⑧笑う門には福来る
 ⑨春闘権本戦出場
 ⑩インカレ上位、全日本選手権出場
 ⑪毎日笑顔で頑張ります!



部員名簿

①役職 ②出身地 ③出身高校 ④生年月日 ⑤テニス歴 ⑥尊敬する人
 ⑦趣味 ⑧好きな言葉 ⑨主な戦績 ⑩目標 ⑪自己PR

高橋 琴葉

3年

- ①勤務・学連
 ②埼玉県立わが丘高等学校
 ③2003年8月17日
 ④10年
 ⑤自分に厳しく何事にも努力する人
 ⑥たくさん食べること、映画を見ること
 ⑦風の後に花が来る
 ⑧春闘2次予選敗退・インカレ出場
 ⑨4年間全力で頑張ります



谷島 和実

2年

- ①コートオーバー
 ②千葉県
 ③東葉高等学校
 ④2004年6月23日
 ⑤10年⑥仲里依紗
 ⑦UVE施設
 ⑧今日の前にあることを頑張れないやつに何を頑張れるんだ
 ⑨夏闘複数本戦出場・インカレ出場
 ⑩死ぬ気で頑張ります。笑い方は5通り。
 ⑪使い分けです。



志賀 亜希奈

1年

- ①財務
 ②福島県
 ③福島県立磐城高校
 ④2005年11月20日
 ⑤12年
 ⑥父
 ⑦お菓子作り
 ⑧明けない夜はない
 ⑨インターハイ準ベスト32
 ⑩インカレ優勝、全日本選手権本戦出場
 ⑪裏面に生きてます



菊地 紗加

2年

- ①スカウト②京都府立命理守山高等学校
 ③2004年7月27日
 ④14年毛元
 ⑤総合格闘技野戦、書道
 ⑥努力は裏切らない
 ⑦インカレ予選複数出場
 ⑧インカレ優勝・王座優勝
 ⑨夢を追いかけて、亞姫巫に会いました!
 「今を全力」の精神で日々頑張ります



福田 蒼

2年

- ①勤務・学連
 ②岐阜県
 ③岐阜県立岐阜高等学校
 ④2004年9月24日
 ⑤8年⑥鶴田浩也
 ⑦買い物
 ⑧不機知不透
 ⑨春闘2次予選敗退
 ⑩インカレ出場
 ⑪4年間を通して人としてテニス選手として成長できるよう頑張りたいです。



菅野 愛渚

1年

- ①IT・広報
 ②神奈川県
 ③湘南工科大学付属高等学校
 ④2006年1月1日
 ⑤10年
 ⑥ロジャー・フェデラー
 ⑦音楽を聴く
 ⑧なんとかなる
 ⑨関東高校団体ベスト8
 ⑩インカレ準優勝ベスト8以上
 ⑪語入員知りなので話しかけてください



長谷川 采香

2年

- ①スカウト
 ②東京都
 ③浦和明徳高等学校
 ④2004年11月11日
 ⑤13年
 ⑥両親
 ⑦音楽を聴く
 ⑧雲外音天
 ⑨春闘単本戦出場
 ⑩王座優勝
 ⑪何事にも全力で、感謝の気持ちを忘れずに頑張ります!



黒瀧 桜花

1年

- ①スカウト
 ②岡山県
 ③山陽学園高等学校
 ④2005年9月20日
 ⑤12年
 ⑥母
 ⑦映画鑑賞
 ⑧与えた想切を忘れても受けた想切に大きく感謝
 ⑨全日本ジュニア准ベスト16
 ⑩インカレベスト8
 ⑪努力家です



戸坂 文音

1年

- ①IT・広報
 ②岡山県
 ③山陽学園高等学校
 ④2006年3月18日
 ⑤12年
 ⑥エレナ・リバキナ
 ⑦映画鑑賞
 ⑧男防選進
 ⑨インターハイ準ベスト16全日本ジュニア準ベスト8複ベスト16
 ⑩インカレ優勝
 ⑪目標に向かって一生懸命頑張ります



松村 羽奈

2年

- ①学生コーチ
 ②東京都
 ③大成高等学校
 ④2004年8月23日
 ⑤12年
 ⑥メガントレーナー
 ⑦劇・映画鑑賞
 ⑧努力は人を裏切らない
 ⑨春闘単ベスト32
 ⑩インカレ準優勝・王座優勝
 ⑪毎日楽ししながら成長します



小安 穂果

1年

- ①小学連
 ②東京都
 ③浦和明徳高等学校
 ④2005年5月25日
 ⑤13年⑥白石光
 ⑦音楽を聴く
 ⑧我が生涯に一年の悔い無し
 ⑨関東選抜団体優勝、全日本ジュニア準優勝
 ⑩インカレベスト16
 ⑪元山開きます



飛松 杏奈

1年

- ①IT・広報
 ②宮崎県
 ③宮崎商業高等学校
 ④2005年7月9日
 ⑤8年
 ⑥お母さん
 ⑦映画鑑賞
 ⑧乾坤一擲
 ⑨インターハイ準優勝出場
 ⑩全国制覇
 ⑪目標に向かって日々精進します



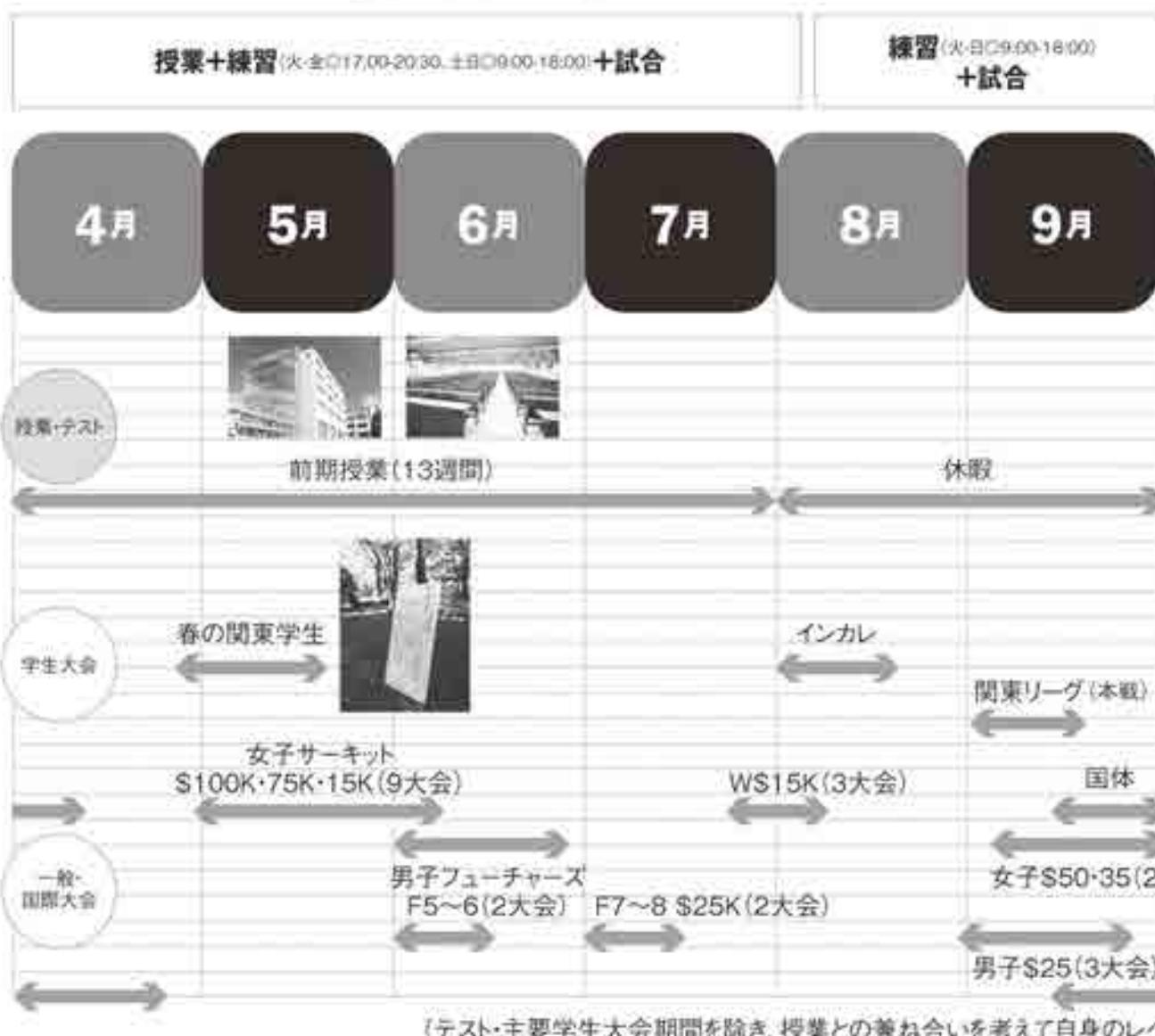
堀 陽菜子

1年

- ①競技力経歴
- ②東京都
- ③東京学館清安臺
高等学校
- ④2005年11月29日
- ⑤9年
- ⑥両親
- ⑦料理
- ⑧この一冊にすべてをかけて
- ⑨全日本ジュニア出場、インターハイ出場
- ⑩インカレ優勝
- ⑪真面目にコソコソ取り組む鬼タイプです



1年間の流れ



年間スケジュール

「JAPAN 大会チャリティークリニック」を年間26回を目標に開催
 (主な例) チャリティークリニックの実績
 年度3月後半に男女国際大会を主催。男子チャレンジ
 イース(\$1.5万)・女子サーキット(\$1.5万)



月間スケジュール

月間スケジュール一覧
 クリニックや行進の確認
 会合、練習計画作成





考慮し20万~300万までの国内大会)

週間スケジュール

- 基本的に毎週月曜日がOFF
- 外部スクールへアシスタンントコーチ派遣
- 司利の森TSC・北総野球チームTC
- 毎月1度、ヨコハマトレーナー会議開催

1日スケジュール

- 授業有り
(練習時間／火・金 17:00-20:30、土日 9:00-18:00)
- 基本的に午前が8:45からスタート。テニス部員はできるだけ3種目までに授業を受講受付し、練習時間の確保に努める。
 - 午後のテニスコートを使用する。
 - オンライン練習(ナターバー設備があり) 20:30まで練習可能。
 - 30分間の練習と15分間のトレーニング。
 - 400mラン+ストレッチイン→レーティングラジコン→フルワーカーラジコン。
 - トレーニングラジコンにてエイドトレーニング。コートではフルワーカーリトルやフルメタリックラジコンなどを行なう。
 - 雨の場合は、昭和の森TSCインドアコートへ移動して練習する場合もある。

日常のオントラストスタッフ陣

- 堀内昌一郎監督／森 植詞男子監督(週6日)
- 長久保大樹女子監督(週6日)
- 安井愛乃コーチ(週6日)



ヨコハマトレーナーとともにフルワーカーラジコンを行なう

2023年10月
王座女子準優勝

日本大学対抗テニス王座決定試合



2023年9月
関東大学対抗
テニスリーグ

男子2部
3位



女子1部
準優勝



法学部 Law

全学部生 ● 1,399人 男女比 ● 男子1,045人(75%) : 女子354人(25%)

→ 基礎学力が高まるカリキュラム

法学部では、全学生がキャリア開発教育を受けています。全学共通科目の「基礎教養」を必修科目とするほか、専門選択科目として「公務員試験」を配置し、各種就職試験に対応しています。

→ 公務員試験にも対応した充実の科目群

各種資格取得のほか、公務員を目指す学生を重点的にサポートします。国家・地方公務員試験に特化する科目を配置するとともに、課外講座「公務員試験講座」などの講義も開いています。

→ ゼミを中心とした少人数教育の展開

法律学・政治学の学び方を身につける1年次の「オリエンテーションゼミ」「基礎演習」、卒業研究を通じて学生が自立して専門的議論・分析を行う能力を育成する「演習」(専門ゼミ)など、少人数教育を展開します。「演習」では、卒業論文やプレゼンテーションなどの形式で、4年間の学習成果を形に残します。

主な勤務先 | 横水ハウス／大日本印刷／LIXIL／中国電力／全日本空輸／東日本旅客鉄道(JR東日本)／ニトリ／みずほ銀行／ゆうちょ銀行／伊藤忠住友商事／大和証券／丸玉プラザホテル／東京地方検察庁／新宿区役所／警視庁／入国管理局

→ 公務員コース

行政事務、警察、消防士など、国産・地方の公務員試験を受験する学生のためのコースです。公務員試験科目を中心としながら、法的要素のある優れた公務員の養成をめざした科目構成となっています。

→ 企業コース

企業に就職する学生を想定し、法律の基本科目に加え、企業の組織や企業に取引に関する専門科目を中心に、ビジネスに活用する法律科目を配置しています。

→ 法律専門職コース

裁判官、検察官、弁護士、司法書士、行政書士などの専門家や法律関連の資格取得をめざす学生のためのコースです。専門科目をしっかり学習します。

→ 現代法文化法コース

現代社会の多様多様な問題に対して、法的なものの考え方、考え方からアプローチできる能力を獲得をめざします。墨田大学アカデミックプログラム(AUP)や中国の留学機会を活かすなど、より柔軟に選択科目を選択できます。

経済学部 Economics

全学部生 ● 1,101人 男女比 ● 男子878人(79%) : 女子223人(21%)

→ 基礎から応用まで体系的に学ぶカリキュラム

1年次から2年次前期まで「入門経済学」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」などで経済学の基礎をしっかりと身につけ2年次後期からは自分の関心に沿った選択科目で実践的に学習。経済の深く広い知識を基礎から応用まで系統的に学びます。

→ 将来の志望に合わせて豊富な専門科目から選択

会計・税務・金融の専門家、国産・地方公務員、グローバル社会で活躍する人材など、将来的志望に合わせた理想的な履修モデルを設定し、それに必要な専門科目を構成、進路に合わせた科目選択ができます。

→ 少人数クラスで問題解決型人材へ成長

1・2年次には経済データに親しみながら分析ツールを学び、3・4年次には実践的・実験的・論理的・批判的・創造的等の見方を修得。少人数クラスより、授業社会への応用力のある、問題解決能力の高い人材を育成します。

特徴

主な勤務先

みずほ銀行／三井住友銀行／住友信託銀行／横水ハウス／住友林業／住友建設／TKC／ソフトバンク／ソニーモービックエンタテインメント／帝國ホテル／萬葉道／ワコール／ブルボン／全薬工業／田辺／セブンイレブンジャパン／東急ストア／ユニアディクス／みずほインターネット銀行／ワタベウェディング／日本郵便

→ 現代経済コース

経済を深く理解できる社会人を目指します。経済学の基礎から応用まで幅広く学べます。

→ 税務・会計インテンシブコース

経済と会計ができるビジネスパーソンを目指します。1年次からコースの基礎科目を学びます。

特徴

主な勤務先

みずほ銀行／三井住友銀行／住友信託銀行／横水ハウス／住友林業／住友建設／TKC／ソフトバンク／ソニーモービックエンタテインメント／帝國ホテル／萬葉道／ワコール／ブルボン／全薬工業／田辺／セブンイレブンジャパン／東急ストア／ユニアディクス／みずほインターネット銀行／ワタベウェディング／日本郵便

国際関係学部

International Relations

全学部生 ● 608人 男女比 ● 男子301人(49%) : 女子307人(51%)

- 外国語によるコミュニケーション能力の習得

英語の学習を基礎としつつ(TOEIC600点以上目標)、韓国語、中国語、インドネシア語、ヒンディー語、アラビア語、スペイン語の中から1言語を地域言語として選択し、1年次から本格的に学びます。

- フィールドワークによる現地体験型学習

国内外での現地調査(フィールドワーク)を通して、自分の感性で多文化に触れ、課題を発見する力を鍛えます。調査後の発表やプレゼンテーション能力の修得にも注力します。

- 社会人類学、社会学を柱とする多文化理解

アジア、アフリカ、中南米の文化から観光、宗教、多文化インターナショナルなど多彩なテーマの科目を用意。文化人類学、社会学を軸に、国際社会に役立つ幅広い教養が身につきます。

特徴

- 経済ビジネスコース

幅広い視野と判断力を身につけ、国際企業人や国際公務員など、世界で活躍できも入材になるために必要な知識を学びます。

- 平和政策コース

本コースでは、紛争解決や平和構築の問題を政治と法の側面から学ぶことで、海外で活躍するために必要な広い視野と深い洞察力をもった人材を育成します。

- 国際協力コース

開発途上国の経済発展や貧困、格差、感染症など開発問題と開発援助について、さまざまな角度から学びます。問題解決に必要な知識と知識を現場で活用するための実践力を同時に養います。

カリキュラム紹介

主な勤務先

横浜ハウス・ワコール／花王／資生堂／東芝／NEC／JR東日本／全日本空輸／ユニクロ／三井住友カード／セブン銀行／第一生命保険／セコム／外務省／警視庁／防衛省／ディスコ／ソリミ／明治製薬／明治乳業／近畿日本ツーリスト／トランク・コスモス／日本郵便

国際関係学部 多文化コミュニケーション学科

International Relations

全学部生 ● 589人 男女比 ● 男子197人(33%) : 女子392人(67%)

- 高レベルな英語・地域言語を習得する

英語を基礎にし(TOEIC600点以上レベル)、韓国語、中国語、インドネシア語、ヒンディー語、アラビア語の中から選択し、公的試験合格レベルを目指して本格的に学びます。

- フィールドワークで実践力を身につける

国内での現地調査と海外での【多文化フィールドスタディ】を通して、自分の感性で多文化に触れ、課題を発見する力を実践的に鍛えます。

- 文化人類学、社会学を柱とする多文化理解

アジアの文化や観光、宗教など多彩なテーマの科目や、面接体験を行う実習科目【多文化インターナショナル】を配置。文化人類学・社会学を軸に、多文化共生社会に必要な知識と思考力を身につけています。

特徴

主な勤務先

大東建託／アンクス／JTB東日本／多摩信用金庫／明治製薬／東洋イン／JALアビア／警視庁／大学教員

- 多文化社会協力エリア

言語、国際企業、宗教などの多様なテーマの下、日本・アジアと世界を比較し、多文化共生のあり方を考えます。

- 観光多文化エリア

世界遺産やテーマパークなど新旧多様な観光資源などを題材に、観光文化への理解を深めます。

- 多文化多言語エリア

アジアを中心とする多様な地域の社会事情や歴史、文化に関する知識と現地で通用する語学力を培います。

経営学部 経営学科

Business

全学部生 ● 1,502人 男女比 ● 男子1,008人(67%) : 494人(33%)

聴く力を養う「インタビュー実践!」

オリエンテーション・ゼミナールでは、商業界で活躍する企業人への「インタビュー実践」を導入。就職意識を高めるとともに、大学でなにを学ぶべきかについて先人の知恵を学びます。1クラス約15人の小人数制のゼミナールです。

行動力と主体性を養うアクティブラーニング

基礎ゼミナールでは、約30のテーマの中から学生自身が興味あるテーマを選択し、自ら設定した課題について、実際に現場を訪れたリース調査・分析を実施します。成果をプレゼンテーション形式で発表し、能動的に学ぶ姿勢が身につきます。

就業力を養う実践プログラム

経営学科では企業経営に関する多様な理論を学習しますが、修得した知識を現実に活かすことを目的にトップマネジメント特別講義、インターンシップ、ビジネス体験プログラムといった体験型授業が設置されています。

特徴

主な就職先

東急建設／東芝／パナソニック／タニタ／JR西日本／ユニクロ／みずほ銀行／三井住友銀行／日本郵便／警視庁／ワコール／みずほフィナンシャルグループ／三井住友銀行

経営学科

「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」という4つの経営資源を管理するノウハウを学ぶ。コミュニケーション能力・情報処理能力・数値的分析力といった幅広い教養と、企業経営に関わる専門的で実践的なマーケティング、経営戦略、会計、人材管理の知識を修得します。

特徴

主な就職先

東急建設／東芝／パナソニック／タニタ／JR西日本／ユニクロ／みずほ銀行／三井住友銀行／日本郵便／警視庁／ワコール／みずほフィナンシャルグループ／三井住友銀行

経営学部 ホスピタリティ・マネジメント学科

Business

全学部生 ● 647人 男女比 ● 男子189人(29%) : 458人(71%)

ホスピタリティ・マネジメント学科の学び

平成28年4月、従来の「クラブ領域」をスポーツとホスピタリティを融合した「スポーツ・ホスピタリティ」として設置を拡充します。「ホテルビジネス＆ブライダルビジネス」「ワードサービスビジネス」「パッセンジャーサービスビジネス」「トラベルビジネス」とともに、5つの分野について「理論実務融合型教育」を展開します。

少人数制によるゼミナール形式の授業を2年次から4年次まで継続して実施することで基本的なマネジメントスキルとホスピタリティマインドを涵養し、未来のホスピタリティ業界そしてスポーツ業界をリードし得るような人材を養成します。

ホスピタリティ・マネジメント学科

平成28年4月、従来の「クラブ領域」を、スポーツとホスピタリティを融合した「スポーツ・ホスピタリティ」として拡張してします。基本的なマネジメントスキルとホスピタリティマインドを学び、未来のホスピタリティ業界、そしてスポーツ業界をリードし得る人材を養成しています。

主な就職先

東急建設／東芝／パナソニック／タニタ／JR西日本／ユニクロ／みずほ銀行／三井住友銀行／日本郵便／警視庁／ワコール／みずほフィナンシャルグループ／三井住友銀行

社会学部 現代社会学科

Scierty

全学部生・593人 男女比・男子402人(68%)：191人(32%)

特徴

あらゆる現象を研究対象としより良い社会を探索する学問

社会は、人と人がなかむれ形成されるもの。身の回りの人間関係から社会現象になったコンテンツ、地域レベルの紛争まで、あらゆる現象が社会学の研究対象になります。社会学や社会問題の知識は、より良い社会のあり方を推進するための力です。好奇心の赴くままに探究したい、多角的な視野を身につけたいなどと考える学生におすすめです。

現場志向・課題解決型の教育で実践力を身につけるカリキュラム

基礎から順に社会学を修得し、関心のあるテーマについて専門知識と探究を深められる3コースを設定しています。学んだ知識を活用して、自分なりに課題解決をめざす授業では、実践力が身につきます。また、近隣の武藏野市や三鷹市と連携した授業など、キャンパスを飛び出して社会のリアルを学ぶ科目も多数開講されます。

亞細亞大学ならではの「エンターテインメントと文化」コース

3コースの中でも、アニメやアート、テーマパークなど、エンターテインメントと文化を真正面から捉え、社会との関連性を探究するコースは亞細亞大学ならでは。ゲーム制作会社などのエンターテインメント関連企業で活躍していた教員が在籍しており、学生の学びを支えます。

エンターテインメントと文化

ゲーム、テーマパーク、アートなど、世間で人気なコンテンツは「社会の壁」です。エンターテインメントと文化を通して社会のあり方を読み解き、より良い世界をつくるためにどのようなアプローチができるかを考察します。

コミュニティとネットワーク

地域や社会における人と人の「つながり」が薄れゆく現代社会、コミュニティや家族のあり方を探り直し、年齢や国籍の異なる人々と共生できる空間や、組織のデザインを学び、つながりを再創造する力を養います。

都市とビジネス

ビジネス、金融、都市開発、スマートシティといったキーワードから「都市」の魅力や課題を検討し、活気、や心地良さを高める新たなビジネスを経営学的な観点から創造するスキルを磨いています。

■ スポーツ科学副専攻とは

亞細亞大学では、所属する学部学科の教育プログラムとは別に、学生が主体的に体系的にまとめられた科目群を履修する副専攻制度を2020年度から導入しました。

スポーツ科学副専攻は、スポーツに必要な身体的・心理的要素ならびにスポーツ競技のスキルや戦術を学問的に1年次より系統立てて学修できる副専攻であり、全学部の学生が履修できます。自身の競技力向上という目的だけではなく、スポーツを専門的な視点から捉え、今よりもスポーツを楽しんだり、将来スポーツ指導者やスポーツ関連企業等へのキャリア形成を目指すなど、スポーツに興味・関心のある幅広い学生を対象とした



プログラムです。所定の科目群から18単位以上を履修した学生には、成績証明書に修了を記載すると共に、修了証明書を授与します。

■ 学びの特徴

スポーツ科学副専攻の科目群の学びは、「メンタル」・「スキル・技術」・「フィジカル」・「キャリア」の4領域で構成されています。そして、目的や興味・関心に応じて、すべての領域について幅広く学ぶことも、興味・関心のある領域を中心的に深く学ぶこともできます。授業は講義形式による知識の修得だけではなく、「救急処置・予防法」では心肺蘇生や止血、テーピング等、救急処置やけがの予防法について実習形式で学ぶなど、実際のスポーツ場面で活きる実践力も養います。

また、3・4年次の「総合実習演習Ⅰ・Ⅱ」は15名前後の少人数制の演習で、スポーツに関する諸現象や課題を題材として、グループワークを中心に学生が主体的に学び、主体性や協調性、課題提起・解決力、論理的思考力などの社会人基礎力を養います。

大学に入って、こんなに変わりました！

CASE 1 真中翔楊(3年)の場合

私が聖経聖大学に進学を決めた理由は、豊富な設備と部員の雰囲気です。私は高校生の時に思い描いた結果を残せませんでした。あと少しというところで負けてしまい、個人戦での全国大会出場という目標を達成することが出来ませんでした。その悔しさから、大学では絶対にリベンジするという強い決意をして大学選びをしていました。そんな中私は聖経聖大学の練習に参加して、ここでテニスをすれば強くなれると確信しました。また、設備が整っていました。他の大学には無い4面のテニスコート、陸上トラック、トレーニングジムなどの強くなる島にはこれ以上ない設備でした。それに加えて感覚の雰囲気も良かったのです。練習中に「悔しいからもう1セットやらせて」と言う言葉が聞こえてきました。その時の雰囲気を見て、而且同士

のマッチ練習でここまで本気になれる学生は他の学校にはいないと思いました。これらを見てこんなにもテニスにひたむきに頑張れる環境は他にはないと思い、私は聖経聖大学に行きたいと思いました。

私は大学に入りすぐに大学の厳しさを感じました。目標の全国大会どころか、開幕大会の本戦へ出場することすら出来ませんでした。1、2年生の時には開幕大会の予選決勝で負けてしまい、これでは高校時代と変わらないと思い、この1年間練習に燃えました。そして、今年は本戦からのスタートです。高校生からの目標である全国大会出場を達成できるように頑張ります。

本気でテニスは取り組みたい高校生の皆さん！聖経聖大学で私たちと一緒に、他には無い環境で強くなりましょう！



森 翔楊
聖経聖大学

から見た 真中翔楊

高校時代から、才覚溢れる技量を持ち合わせ、攻撃的なフィアハンドを軸にゲームを組み立てる選手で、これまで大きな戦績がないのが不思議なくらいでした。コート上でクイックネス(スピード)もあり、あとは個々の思考や知識を身につけ、自信が無いと見ているショットに対しての現状を知り、改善していくことで間違いなく結果を残していくことが出来るようになります。昨年のリーグ戦においても、大切な試合で勝ち切ることのできる精神力があり、チームの中心的選手の一人として活躍してくれました。これまでの経験で培ったものを生かしていくことが出来れば、開幕や全国レベルでの活躍は間違いない、とても楽しみな選手。

CASE 2 沼野菜海(4年)の場合

私が聖経聖大学への進学を決めたのは、大学で競技テニスを後悔なくやりきりたいという思いが強くあったからでした。私は高校時代まで、大きな成績を挙げたことがありません。また、高校最後の1年は新型コロナウイルスの影響により、試合を行うことすら出来ずにジュニア時代が終わってしまいました。ジュニア時代にやり残したこと、成し遂げられなかった目標を大学テニスで達成できる環境に身を置

きたいと思い、聖経聖大学への入学を決意しました。

聖経聖大学はコート面数が多く、陸上トラックやトレーニングセンターなど、強くなるための施設や環境がとても充実しています。また、スタッフの方々から毎日指導して頂くだけでなく、学生間でメニューを考えたり、お互いにアドバイスをしあいながら切磋琢磨をしています。さらに、JOP大会やITFなどの試合にも積極的に参加することができ、様々な環境で多くの経験を積むことができます。その際にも、スタッフの方々が常にサポートをしてくれるため、どんな試合も無駄にすることなく、次に繋げていくことが出来ます。

私は入学してから、悪まれた環境や互いに高め合える仲間たち、的確な指導やサポートをしてくださるスタッフの方々のおかげで、どんなに苦しい時も諦めずに努力できるようになりました。全国大会でも結果を残せるようになりました。私がここまで強くなれたのは、間違いなく聖経聖大学へ入学したからです。

皆さんも自身の可能性を信じて、この聖経聖大学で強くなれてみませんか？是非一緒に成長し、飛んでいきましょう！

沼野菜海
聖経聖大学

から見た 沼野菜海

彼女は2023年度文句なしの成長を遂げた選手です。入年は切らばく、同事も頭で考えて行動する事のできる選手でした。しかし、よく言えるは買もの。買いつかに自らのできる事に鍛錬を引いてしまう事が最大の弱点でもあったといいます。そんな彼女も大学生活の折り返し地点を過ぎ、少しずつ強さにも通用するようになり、最初は悔しかった「もう少しだった」という満足感が、勝ちたい—また勝てなかっただいわゆるに変わり、少しづつ自らを自分で鼓舞できる様になっていた事が最大の成長であり、彼女を全国の上位へと押し上げた要因だと思います。誰から言われるよりも、自らが感じ、自らで行動する事の大切さを体感してくれたと思っています。ただ、ここで満足してはこの先はありません。まだまだ上には沼山の強敵達が待ち構えています。そんな相手に勝ち抜く為にこれまで以上に己を磨き、日々前進してくれることをよりも期待しています。もっと大きく、もっと強くなった彼女を今年も観ることを信じています。



亞大指導者インタビュー



堀内 昌一 総監督

普天を思わず青色のハードコートが10面並ぶ景色は壯観で、一瞬北米カオーストラリアのテニスアカデミーに来たかのような錯覚を呼び起す。2年前に完成したばかりの、最新機器を取りそろえるトレーニングセンターも、その外観からしてスタイリッシュだ。ただ……それもモダンな施設の脇に建つクラブハウスは、どこかレトロな内装で、紹和的な風情が漂う。

東京都の北部に位置する亞細亞大学日の出キャンパスは、冬場になると都心部よりも気温が数度ほど低い。その寒空の下で、誰よりも長時間コートに立つ「総監督」は、練習の合間に軽い、クラブハウスの事務所に白い息を吐きながら姿を現した。

日に焼けた顔に慣熱家らしいシワを刻み、長い通る声で快活に話す総監督の面影も、クラブハウスの伸びに良くなじむ。この日、堀内昌一氏のもとを訪れたのは、テニス指導者としての原点や、教育理念について伺うため。キャンパスの一角に横かしい時間を費し始めたかのような空間で、堀内氏は、まるで数十年前にタイムスリップしたかのように、テニスに出会った日のことを、熱っぽく語り始めた。

「僕自身がね、テニスを高校から始めたんですよ。もう取り憑かれたように、テニスにのめり込んで、始めたばかりなので、当然、インターハイ（全国高等学校総合体育大会）に出られるようなレベルではない。雨を見たら、うまい人はかりで衝撃ですからね。それでも各競技は持っていてね。（いつか、全日本タイトルを取りたい）っていう勝手な妄想が、テニスを始めたときに生まれたんです」。

高校生という、多感ながら自らも確立はじめた時期の出会いは、誰もが青春そのものだろう。東京に住む高校生は、今はなき田園ロジアムに自転車で通い、トッププロたちのプレーに目を輝かせた。ボールの匂いや、コートに残るボールの跡、そして選手たちの意地――

「ジャパンオープンで、（イバシ・）レンドルが優勝したときも見ました。時速200kmのサーブを打つチコの選手も見たし、そこに日本の選手が粘って、粘って、くらいついで……一人で2時間、3時間戦うし、みんな個性的だし、これはすごいスポーツだなと思いました」

要するに、子ども心に惹かれたんですよ——そう言い堀内氏は、少年のように笑う。その「後さぶられた心」に明確な輪郭が描かれたのが、大学1年生の時。名コーチの憧れ高ニック・ボロテリーが、アメリカのトップジュニアを連れて日本を訪れた時である。

「当時は、JALカップというジュニアの国際大会が、立川市で開かれていたんです。そこに参戦する子たちを、ニックが東王テニスクラブに連れてきて、イベントをしてくれたんです。僕もそのお手伝いを行ったんですが、まだ14歳くらいのアメリカのジュニアが、ピンポン玉のようにトップスピントかけて、重いボールを打つんです。もう信じられなくて！ そこで二人の友人と一緒に、「俺たち、アメリカ行きたい！」とすぐにニックに言ったんですよ。そしたらニックが、「Sure, welcome! (もちろん歓迎しますよ)」って言ってくれたんですね」。

かくして3人の若者たちは、取るものも取り戻す海を渡った。1ド

ルが、200円台だった時代のことである。

希望を胸にフロリダ州に渡った3人は、ニック・ボロテリー・アカデミー近くにアパートを借り、テニス三昧の日々をスタートした。

またインターネットも、ウーバーイーツもない時代。「両国での寂しさは感じなかつたか」と問うと、堀内氏は、「全然なかつた！ 毎日が楽しくてしょうがなくて」と笑顔する。

「当時の日本での僕は、一球をただ競争合う練習しかしていかなかった。そんな時代にアメリカでは、300球くらい入った籠からコーチたちが球出しし、ドリルをずっとやっている説ですよ。それもコーチが、一球ずつアドバイスする。これは強くなるに決まっているよなって、実際にそこにはいる子たちが、そのまま世界に行っちゃうわけだから、そこでの経験は、僕からしたら宝ですよ。だからもう、毎日が新鮮で、アパートに戻ってからも、夜は3人でコートに向かって復習ですよ」。

かくも刺激的な共同生活を経て、3人は各自の道を見つけていく。一人はやがて帰国し、一人は米国の別のアカデミーへ。そして堀内氏は、アメリカの大学への入学を希望した。果たしてボロテリーの紹介もあり、聞いた叶ってニューメキシコ州立大学に留学。そこでもまた、アメリカの大学システムに衝撃を受けることになる。

「1年間の大会スケジュールがきもっと決まっているし、練習試合も年間を通してしっかりと組まれている。それにコーチがフルタイムでついていて、一緒に練習やトレーニングをしてくれるんです。日本との差を感じましたね。これは50年は遅れているなと……」。

最終的に2年間アメリカに滞在した堀内氏は、帰国後は日体大に復学。

「本当にもう少しアメリカに居たかったんですが、休学できるのが2年間までだったし、体育教師になる目標もあった。アメリカで、ジュニア育成の仕組みや大学のシステムを目の当たりにしたので、これを持ち帰って頑張るしかないなと思ったんです」。

後ろ髪を引かれつつも、決意を胸に放った日本。そして2年ぶりに大学の試験に合格した時、堀内氏曰く、「考えられないこと」が起きた。「インカレでベスト8に入ったり、全日本選手権の予選にも出されたんです。球が止まって見えるような感覚もありましたから」。

それは、本人も無自覚だった2年間での急成長が、明確に可視化された瞬間だった。同時に堀内氏自身が、これまでやってきたこと、そしてこれからやろうとしていることの正しさを、確認した瞬間でもあつただろう。

「世界基準のテニス指導」の理念を掲げ、堀内氏が亞細亞大学の講師及びテニス部の監督に就任してから、今年で37年が経った。その間、根立つ背を見送ってきた教え子たちは、テニス部での経験を生かし、今、それぞれの分野で活躍している。アカデミックの道を志した者、プロテニス選手となった者も居れば、ビジネスの世界に進んだ人も多い。

堀内氏の指導理念はあくまで、「テニスはラケット一本で、世界中の誰とでも友だちになれるスポーツ。多くを見たり体験しなければ、このスポーツをやっていてもったいない」の想いである。それは、堀内氏がテニスを「思考力のスポーツ」と定義していることとも、深く



結びついているだろう。

やや話しが飛躍するが、アメリカでは「博士」の学位は、それが数学だろうが体育学だろうが、すべて「Ph.D.」と称される。これは「Doctor of Philosophy=哲学博士」の略。つまりは文系も理系もなく、学問はすべからく「智の探求」であるという理念だ。アメリカで学び、スポーツと思考力、そして大学や学問を括的にとらえる堀内氏の感性には、そんな「哲学論」が通底しているように見える。

「僕は体育専門だけれど、心理学も勉強した。テニスで身に付けた思考力は、他のことでも必ず役に立つ。それはセカンドモーリアだけでなく、人としても磨かれるんですよ。大学で教えることの魅力は、そこにあるんじゃないかな」

だからね……」後は日焼けした顔に、一層のシワを刻んで言った。「卒業生たらがいろいろな方面に散らばって、それぞれの分野で活躍している。もうね、こんなに嬉しい事はないんですよ」――



森 稔詞 男子監督

テニスと決別していたかもしれない一人の元プロプレーヤーを、再びこの世界に呼び寄せたのは、種つかの数奇な縁と繋がりだった。

森が、テニスプレーヤーとしての自身の限界を感じてしまったのは、24歳の頃。

【シャンパンオープン】で、世界100位前後の選手にアービスエースを決められたんですよ。真ん中にドカンと座ったのも、その時に、「あ、これはもう無理だな」と思っちゃったんですね……」

その後もしばらく現役は続けたが、引退と就職を機に一度は完全にラケットを置く。ただ偶然会った、森の経験を知るジュニア選手の母親に請われて、仕事の合間に練習を見るようになった。するとある日、練習の場に偶然現われた旧知のテニス記者が、小さな雑誌の記事にする。その記事を目にしたのが、亞細亞大学テニス部監修の堀内監督。

【コーチがケガして人手が足りない、またテニスをやってるなら、うちに来ないか?】

その一通の電話が、今も彼をテニスの世界につなぎとめる運命の始まり。

亞細亞大学テニス部コーチに就任して間もない森が、堀内監督に推薦したのが、「学生を連れて全豪オープンに行きましょう!」だった。その背景には、1994年に自身が初めて全豪オープン予選に出場し、受けた衝撃がある。

「僕自身、4大大会はテレビで見るもんだと思っていたんです。でも実際に自分で会場に行って、プレーもした時、もっと早くここを見出せばよかったという思いが強かった。それまで、自分のやっているテニスが、ここに繋がっていると思えなかった。でも実際に来たら、繋がる感覚を持てたんです」

その「繋がり」を学生たちにも感じて欲しい——それが、森の提案の原動力だった。

森がコーチに就任した翌年から今日まで、亞細亞大学テニス部の全豪選抜は伝統として続いている。実際に会場に足を運んだことをきっかけに、プロ転向を決意した学生もいた。想えば「コーチ」の語源は、四輪馬車。「学生を乗せて試験をクリアさせる」の比喩から、指導者の意味を持つようになった。

四輪馬車に乗せて学生たちを目的地へと運ぶ、夢を現実へと繋ぐ——それが、「コーチ・森」が進む道だ。



長久保 大樹 女子監督

【コミュニケーションを取ること】——。シンプルではあるが、それが長久保大樹の、指導者としてのモットーだという。

7年前に亞細亞大学テニス部のコーチに就任し、主に女子部員たちの指導にあたった時、長久保が感じたのは「人によってモチベーションが違う」とだった。

「部内でも成績上位の子は、やっぱり勝っていくから自然と盛んなれる。でも負けが続く部員は、自然と盛んなれない。ここに溝が生まれてしまうと、チームとして良い状態になれないんです」

その時に長久保が改めて思い至ったのは、「目標は人それぞれ」という真理。

「全員が全国優勝を目指す必要もないし、プロを目指す必要もない。やっぱり、それそれが自分の目標に向かって常に挑戦して欲しいなと思っています」

その理念を体現するうえで長久保が心がけたのは、「全員を見られるようにしよう」ということ。

「一般的の子だけ見るのではなく、全体的に見るようになります。あとでは、常にコートに居るようにしました。練習を見るだけでなく、何気ない会話をしたり、一緒に過ごす時間を増やすようにしています」

そのような長久保のコミュニケーション能力と広い視野は、高校生テニス部からプロ選手のツアー等まで、幅広い指導経験で培われたものだろう。それらの実体験から長久保が自身の心に刻むのが、「線を引かない」ということ。

【日本のテニス界では、大学テニスだ。プロだと、色々なところに線を引きたがる。でも本来のテニスの魅力は、誰でも挑戦できるところだと思います。だからうちの選手でも、どんどん国際大会の予選などに挑戦していくいい。それをやってきたのが堀内先生なので、そこは受け継いでいきたいですね】

線を引かない。固定概念の枠にはめず、直接言葉を交わして個々を理解する——

それこそが、彼自身が堀内監督の指導を受けた、亞細亞大学テニス部の「イズム」である。

亞細亞から世界へ プロ転向した卒業生へ



熊坂 拓哉 選手

「ここでプレーしたい！」

あの日、心に湧き上がったその興奮が プロになると決意したきっかけだった。

2018年、1月——森コーチらと共に、初めて全豪オープン観戦を行った当時の大学1年生は、試合はもちろん、練習コートにも頻繁に足を運んだ。すると1~2メートル先で、速やかなステップでホールトを打つロジャー・フェデラーが居る。

「自分のなかで、考え方などからかちょっと変わった瞬間でした。もう、何もかもが違う。会場の雰囲気もそうですし、観客もそうですし、やっぱりフェデラーとかを近くで見て、懸念にからうこいいなと思って」。

熊坂拓哉の胸に刻まれた感激は、今もビヒッドな輝きを放っている。

地元の山形県でラケットを握ったのは7歳の時。父親の影響だったが、「正直、野球がやりたかった。最初は楽しくなかった」と打ち明ける。小中学校時代の経緯は、「県大会では優勝するが、東北大会だと2回敗降けくらい。初めて全国大会に出場したのは、中学3年生時だった」。

日本大学山形高等学校時代は、インターハイで準3回戦、団体戦でベスト16が最高戦績。「プロになるつもりではなく、テニスで良い大学に行ければ」と思っていた熊坂を、最も熱心に説いたのは、亞細亞大の森コーチだった。

「森さんが山形まで足を運んでくれて、言葉からも熱い想いが伝わってきました」

森の情熱に触れ、数ある説教の中から亞細亞大を選ぶ。冒頭に触れた進歩的な経験をするのは、入学して最初に迎える新年のことだ。

大学では練習やトレーニングに加え、「亞細亞大学国際オープン」の大企画に携わった経験も大きい。熊坂が主に担当したのは、ス



タッソ係。プロ選手の試合のストリップをつけることで、データと試合展開の関連性が、自然と頭に入ってくる。

「ポイントや状況に応じて、どういうプレーをするのかなど、すごく勉強になりました」

それら大会で得たデータを持ち寄って、今度は部内で分析し共有する。

プロの選手たちは、プレークポイントの時に、どのようなプレーを選択をしているのか？

ファーストサーブはどれくらいの確率で入れ、何バーサントくらいのポイント獲得率だと勝利に結びつきやすいのか……？

それらの数字に触れることで、「テニスに多角的に触れられるようになった」と熊坂は言う。

プロ転向から3年経ち、2024年1月にはキャリア最高位に到達。プロ転向のきっかけとなるあの地へと、健闘に歩みを進めていく。



堀内 竜輔 選手

堀内竜輔にとって、学生時代で最も印象的な出来事は「関東大学テニストーナメントのダブルスの優勝」だという。

「ペアリングがかなり上手く行っていたので、自信はあった。優勝以上のことをやっている自信があったので、勝った時は冷静でした」。

この時に堀内が組んだパートナーの熊坂拓哉は、同期の良き盟友でもある。

「練習でも試合でも、手を抜かず一生懸命やる選手だったので、刺激を受けていました。相手はみんな強かったです。その中でも特に熊坂と高見澤は抜けていましたね。もちろん仲間だし仲も長いけれど

ど、ライバルとしても見てました。それがすごく良かったですね」。切磋琢磨し、みんなで伸びあがめを共有して進んだプロの道。もっともプロになることは、堀内にしてみればテニスを始めた小学生の時から、指揮のため目標だった。だからこそ亞細亞大で過ごした4年間で、その目標に向かって押してもらえたことを感謝する。

「可憐性を遺さなかっただ。僕が、世界一になると云っても、一度も、無理だと待てというようなことは言われなかった」。

実際にプロになってからは、困難にも直面している。それはコートでのプレーや試合内容だけでなく、スケジュールの組み方など、オフ

インタビュー



コートの比重も大きい。だからこそ今思うのは、「大切なのは、時間の使い方」と姫内は言う。

「プロになったからには、24時間、力を注ぐというのが大事な考え方かなと思うんです。それは練習やトレーニングの時間だけではなく、例えば電車の中でゲームする時も、「このゲームはリラックスのためにやっている」という意味付けをするなどです」。

現時点での目標は、「5年以内にプロの国際大会でのタイトル獲得」、「将来的には、グランドスラム出場はノルマだと思ってる」と前を向く。

「僕は、時間は裏切らないんじゃないかなと思います。仮に間違った練習をしていたとしても、量をたくさんこなせる人は、最終的には強くなるんじゃないかなと思っているので」。

今の自分に出来ることを、実際に続けていく——それこそが、姫内亞大で得た財産だ。



高見澤 岳飛 選手

大学時代の「もっとも印象に残っている試合や大会」を聞かれた時、彼が思い出すのは、1年生時のリーグ戦。それは恐らくは高見澤岳飛にとって、テニスにまつわる、もっとも辛い記憶の一つだ。

「ダブルスもシングルスも、全部出させていただいて、入れ替え戦まで行ったんだと12戦勝ったんですよ。でも僕、12連敗して……」。
負けが続けば、気持ちがふさぐ。

「試合には出たい。でもどうせ出てもまた負けるんだ」……そんな経験も、胸に残る。それでも、監督をはじめコーチやキャプテンも、高見澤を使い続けた。その時に感じたのは、団体戦の責任感。



「与えられた以上は、全力で戦わなくては、出たくても出れない人もたくさんいるのだ。そこで諂ひ張るしかない」。

その経験が彼の中で、スイッチが入った瞬間だった。

父親がテニスコーチでありながらも、高見澤が本格的にテニスに打ち込んだのは小学校6年生の頃と認め、中学生時は、全国大会の経験はなし。高校2年生時に、ダブルスでインターハイベスト8に行ったのが最高戦績だ。その時にペアを組んだ先輩が、姫内亞大に進学。いかに環境や指導者たちが変化しているかを聞かされ、自分も同じ道を選んだ。

ただ、初めて練習に参加した時に思ったのは、「これ、4年間はぶりだ」。あまりの厳しさとレベルの高さに、心が折れかけた。それでも練習にまといつき、2年生時には関東大学テニス選手権でベスト8に進出、「監督やコーチの指導についていけば、絶対に強くなれる」との思いを練習に重ね、3年生時には直接で準優勝するまでに成長した。プロになると決意したのも、この頃だ。

プロ転向初年はコロナ過もあり、スポンサー獲得や遠征費でも苦しい日々が続いた。その中でもクラウドファンディングで活動資金を募り、西岡真仁選手に助言を求めてたりと、人の縁も繋いでいる。

「大学で上下關係や礼儀なども教わった。それが今も生きていると思います」と、学生時代の恩恵を振り返る。

テニスを本格的に始めたのが遅いこともあり、キャリアの全盛期が訪れるのも、まだまだこれからだろう。

「30歳までには、グランドスラムに出られる選手になりたい」と高見澤は明言する。長く厳しい道を踏破していく心の強さ。その原点には、大学1年生の時の、掛け替えのない経験がある。

Special Report プロ転向した卒業生へインタビュー

INTERVIEWER: Akatsuki Uchida(内田 晃)(@aki0721_X)(Twitter)アカウント: <https://x.com/aki0721>



松田 美咲 選手

テニスは、究極の個人競技とよく言われる。コートに立てば、いつ終わるかも分からぬ試合を、一人で戦い抜かなくてはならない。タイムアウトもなければ、試合によってはコーチからの助言も禁じられる。

それでも松田美咲にとって、テニスは仲間の居る競技だ。済和学院高校時代は、部活動一本。その高校時代の最も印象に残る試合は、インターハイの決勝戦だという。この時のインターハイは基根県開催で、決勝の相手は18歳・開星高校の細木咲良。

「相手には、100人以上のすごい応援がいる中での試合だったんです。でも人数では負けていても、仲間の声は鮮明に聞こえてきた。その中で最後、跳った試合で負けてしまったことが、悔しい思い出としてずっと残っています」。

その体験があったからこそ、松田は「日本一のタイトル」を欲して大学へと進む。亞細亜大学を選んだのは、高校時代に師事していた長久保コーチに、引き継ぎ見てもらえることが大きかった。

入学1年目は、病のため1年近くコートを離れた。復帰した2年生時には、インカレとインカレ室内でも準優勝。その後、あと一步届かなかった頂点について立ったのが大学3年生のインカレ室内。翌年もインカレ室内で、第1シードを破り覇冠し2連覇を果たした。

胸の間に、部員や先輩、先生たちの声に励まされた。復帰への道でも、監督やコーチ、トレーナーたちの助けに大いに感謝した。大学ではテニスはもちろん、授業を通して他競技の部員たちとも親交を



深め、多くの友人も得た。

大学卒業と同時に迷いなくプロとなった松田が目標は、グランドスマッシュ出場や、そのさらに先のトップ10。ただ究極の夢や目標は、少し別のところにある。

「自分のテニスのプレーで、世界中の方々を笑顔にしたい」――。

それが、松田が福く理想のテニスプレーヤー像。その背景にあるのは、高校、そして大学時代に感じてきた、仲間からの支えや輝。松田にとってテニスはやはり、孤独な個人競技ではなく、人々との繋がりだ。



山崎 郁美 選手

大学3年生の時点でインカレを制すると、ITF(国際テニス連盟)公認の、賞金総額2万5千ドル大会でも優勝。在学時代から国際大会でも結果を出してきた山崎郁美は、多くの関係者からも、プロになることを望まれてきた選手だろう。

ただ本人は、高校生の時点までは、決してエリートではなかったと言う。

「いつかプロになれたらな」と、ふんわりとは考えていたけれど、高校卒業時点でプロとかは、全然考えていませんでした」。

大学でテニスを続けることが、ほぼ唯一の選択肢。数ある大学の中から東洋大を選んだのは、初めて練習に行ったら時に感じた、コーチ陣の対応の良さ。

「この環境で4年間テニスをやったら、きっと強くなれる」と直感的に確信し、その時点で心を決めた。

もちろん、テニススクールに通っていた子どもの頃から学校好き。「中学2年生の時に、ジュニアの国際大会のワイルドカード(主催者推薦枠)を出すと言って頂いたのですが、大会日程が学校の合宿コンクールと被っていた。コーチに『どうする?』と聞かれた時、「合宿コンクールに行きます」と即答したくらい学校が好きでした」。

そんな思い出を恵むかしそうに語る山崎にとって、大学入学と同時に世を離れたコロナ禍は、もどかしい時間だった。キャンパスには通えず、授業はリモート。ただ、日の出キーンパスのコートでの練習は、比較的早く再開された。仲間たちが居るなかで、確立された環境で過ごせたことは、心身両方の面で大きな意味を持ったんだろう。



リモートではあったが、法学部の授業も楽しかったと振り返る。とりわけ印象に残っているのが、会社法。

「会社勤務の人たちは、この時間に通勤し、これくらいの範囲がもって、こういう有給があって――ということを学んだんです。社会のことなどが知れて――」。そこまで言うと、彼女は決まりが悪そうに続けた。

「私には、会社勤務はムリだなって思いながら授業は聞いていました。やっぱり私はテニス選手だなって」。

冗談交じりに振り返るそんな経験も、彼女がプロになる背を押しだすだろうか。

2024年、山崎郁美はプロテニスプレーヤーとして、新たなスタートを切った。

卒業生の主な就職先

■就職状況

近年、学歴よりも人物重視の選考を多くの企業が取り入れてきています。

そこで就職状況を紹介するとともに亞細亞大学テニス部での活動がどのように就職に生きてくるかをお伝えしたいと思います。

★学歴重視よりも人物重視の採用

学歴一大企業と思われる方も多いと思いますが、近年多くの企業が人物重視の採用を行っています。

これは本人が今までどのような学生生活を過ごしてきたが重要になるということです。

ではテニス部での活動がどう生きてくるのかをお伝えします。

POINT

- 国際テニス大会の運営(男女両部門)により実戦力が向上
- クリニック(3時間半)で接遇能力向上
- 国際テニス大会の運営費(クリニック・スポンサー)の呼びかけ、集金など交渉力向上
- 派遣コーチで実践的なコーチスキルアップ(亞細亞大学と提携しているテニスクラブにアシスタントコーチとしてレッスンに加わる)
- 週6日の部活動(日々の活動の中で多くの体験をする事が出来る)による生活力向上
- その他、社会人として必要な幅広い能力が身につく

亞細亞大学テニス部○主な就職先一覧

大正製薬／バイオニア／松下電工／NEC／パナソニック／豊田自動織機／朝日生命保険／大澤商会／セコム／伊藤忠商事／セナラル石油／ヤナセ／ワールド／東芝／島津製作所／NTT東京／日本通運NIPPO／北日本物産／NTT北海道／獨創銀行／日本生命／平和堂貿易／東急百貨店／松下通信工業／大東銀行／アイシン精機／山陽新聞／ディスコ／野村証券／ヨネックス／みずほ銀行／レオパレス21／常磐薬品／ANA／プリンスホテル／警視庁／神奈川県警察／JR北海道／トヨタ自動車／ブリヂストンスポーツ／アメースポーツジャパン／イカイ／KONAMI／JA山梨／明治安田生命保険／三井住友海上火災保険／アドヴァン／エームサービス／ウェスティンホテル／株式会社三越伊勢丹／ウィンザーテニスショップ／九州電力／福島工業株式会社／株式会社リコー／東急住宅リース／留学(イギリス・ドイツ)／学校教員／SENKO／消防局／フクシマガリレイ

OGインタビュー(株式会社京葉銀行)

「就職活動に役立った点」

亞細亞大学のテニス部は、コート面積が豊富を上に新たにリニューアルされたトレーニングセンターなどの設備も充実しており、テニスにおいて強くなる為の環境が整っています。またそれだけでは無く、仲間の大切さや挨拶・礼儀などの社会人としての必要なスキルを学ぶことも出来、様々な面で成長出来る場だと4年間を通して感じました。

その中でも特に就職活動に役立ったと感じた点は、学生主体の部活動の運営です。学生同士で意見を出し合ながら、大会スケジュールに応じて練習メニュー・トレーニングメニューの考案をしたり、各部署ごとのミーティングを行ったり、毎年3月には亞細亞フェューチャーズの運営をしています。その他にも大会後の報告書や日々のフィードバック、電話やメールでの定型文などがあります。正直、学生時代は何の為に行っているか深く考えたことは無かったのですが、社会人となって初めて、これら全ての行為が組織の中で活動していく上での義務やマナーに難があると実感しました。

私自身、入学当初は銀行員として働くことを全く想像していなかったのですが、課活動内で財務という部署を経験したことによって、ある程度の金融知識が身に付きました。現在では何の違和感も無く会社で働くことが出来ています。

最後に、亞細亞大学はテニスをする上で素晴らしい環境が整っている上に、人として成長出来る場でもあります。是非 充実した4年間を亞細亞大学テニス部で過ごしてみて下さい!

伊藤 さつき

OG10年卒業 法学部法律学科



卒業生、それぞれの道

---指導者へ――

高田充
 ジャパンナショナルチームナショナルコーチ
 「監督に言われてきました。自分を信じ続けること。選手たちに伝えながら、世界にチャレンジしていきたい」



私は、亞細亞大学を卒業後、弟の西岡良仁をはじめ、様々なプロ選手のコーチング、ヒッティング、サポートをしています。ですが、私もプロを目指して生きてきました。現実は厳しく、結局、結果を出すことができずに私は夢を諦めました。今まで明確な目標があった人生でしたが、急にそれがなくなってしまったことで、自分のことが全くわからなくなりました。自分は何がしたいのか、何ができるのか、何のために生きたいのかわからなくなっていました。そんな時、良仁が「一緒にツアーを戦わないか」と言ってくれました。そこで初めてツアーコーチとしての経験をすることになったのです。私にとっての第一歩でした。そこで感じたことは、「自分から求めることが当たり前の世界」ということです。ツアーの現場では誰も与えてはくれません。だからこそ、自己アピールがMustな世界です。自分から行動しなければ、何も得ることができないということを知りました。同時に、とてもやりがいを感じました。プロ選手のコーチは、元プロ選手や有名な選手にしかできないといったイメージがあると思います。実際ツアーコーチとして、この年齢で活動している人はいないと思います。でも、私は敢えて

平成3年度卒業の我々は堀内監督が亞細亞大学に入り、強化を始めた最初の学生です。私は他の大学の推薦もいたいでいましたが、夢をもった監督のもと、そして同期の素晴らしい選手と亞細亞でいっしょに活動がしたいという強い思いで、堀内監督にお願いして就職させていただきました。

大学生活では、学業、テニス、部活動と充実した時間を過ごし、社会に出る前の準備をすることもできました。当時の堀内監督からもテニスが強いだけではなく、人間力を高めるという考え方のものと、大学4年間教育を受けられたことは、現在の私にとって大きな財産となっています。

沖縄出身の私にとっては2・3月のセミナー春合宿はかなり寒く、たいへん厳しいものでした。夕方からの10kmランニングなどは、正直引出しだくなることもありました。それを乗りきることにより自信をもつことができたのも事実です。

大学リーグの団体戦では7部で(ひとりだけ)敗戦するという屈辱も、そしてチーム全員で成し遂げる喜びも味わうこともできました。自分の夢、目標に「チャレンジ」することを常に掲げて活動し、高校時代に戦績のほとんど

ない私が、全日本選手権で優勝し、グランドスラムも経験できたことは、亞細亞大学で経験した4年間、そして堀内監督から教わってきた「自分を信じ続けること」ができたからだと確信しています。

高校生の皆さんには、自分の可能性を信じ、目標をもって努力を継続する——言葉でいうのは簡単ですが、それに向かって「チャレンジ」する4年間であってほしいと願っています。それを実現できる環境はここにあります。

私は現在、ナショナルコーチとして活動しています。ナショナル選手のツアーに随同して、常に強化を図り、レベルアップすることを心がけています。

デビスカップでは29年ぶりにワールドグループ入りを果たし、世界ランキング100位以内に3名が入るという目標も達成しました。今後も堀内監督に教わってきた「自分を信じ続けること」を選手たちに伝え、世界に「チャレンジ」していきたいと思っています。

たかだみつる(1969年9月26日、沖縄生まれ。亞細亞大学出身。現生命医師。2000-02年全日本選手権優勝。03年羽田選手権プロのツアー部門、03-05年わ山選手権プロのツアー部門。03-04-07-08年とフェル南日本代表チームのコーチ。11年からデビスカップコート、男子ナショナルチームの危機にあたら。(左側)JOCアシスタンスナショナルコーチ。(右側)ITAナショナルゲームズナショナルコーチ(男子担当)。9回シリトコーチ)

それにChallengeすることを決めました。そのきっかけとなった言葉が、There is no time like the presentです。直訳すると、想い立ったが吉日という意味になります。今やろうとしていることは、私にしかできないことかもしれないと思い、気づいた時には走り出していました。それから、私はあらゆる現場を経験させてもらいました。必死に何かを成したい、学びたいといった姿勢は必ず誰かが見ててくれています。私はたくさんの方々に手を差し伸べていただきました。格好悪くても、周りから批判されても、自分自身を信じること。やりたいことに誠実であることが、きっと誰かの心に響くと私は思っています。出会いは必然です。必要な時に必要な人と出会うようにできています。きっと、それに気づくことが大事であり、嬉しいことだと思います。だからこそ、選んだ道を信じていくしかないのです。そしていつか、やってよかったと思える人生でありたいと思います。「今」を、そして「出会い」を大切にしてください。

西岡 嘉雄
 ワンコインテニス
 1983年10月26日生まれ。三重県出身。現日本工業大学。14年まで東洋大学在学。16年に本大学を卒業後、ツアーコーチとして活動中。西岡良仁選手のサポート山崎、大川選手、フューリーの伴走。曾祖に昭和10年代のテニス選手。ツアーカップの堀内監督から17年6月以降、2年間のバイトをロジカルテニススクール(Cole Valley)で開催。ヨーロッパ、クレートコートのテニスを学ぶ。

西岡 嘉雄
 ワンコインテニス



平良和己

(沖縄尚学高等学校)

高校時代に歴が立たなかつた
間違いなかつたと思いましめた



6歳でテニスを始めて、高校まで地元・沖縄で活動しました。高校時代はインターハイで団体ベスト8に入るも、個人戦は1、2回戦負け——どうしてもっと強くなりたかった——。関東1部リーグではない、偏差値の高い名門の大学にも説明されましたがまったく興味がなく、全国のトップ選手が集まり、10面のテニスコートとグラウンド、トレーニングセンターなどの素晴らしい環境、そして堀内先生の指導に「ここだ！」を感じて亜細亜の門を開きました。

4年間の学生時代は、大半をテニスに費やしたと言っても過言ではありません。沖縄にはない素晴らしい環境の中、全力プレーできることに、今までにない充実感を覚え、毎日テニス

コートを走り回り、自分なりに限界を目指してきました。そんな中で高校時代にはまったく歴が立たなかつた選手に関東学生で勝ったとき、亜細亜を謙んで間違いなかつた感じました。リーグ戦、大学王座という今まで味わったことのないプレッシャーの中での試

合は、いまとなればとても良い経験だったと思います。人生であればどのプレッシャーはなかなか味わえるものではありませんから。

現在は高校の教師として教壇に立ち、放課後は部活を指導しています。もともと教師になるとは思っていませんでした。何となく4年間で免許が取れるならと思い、3年次から教職授業を受け、社会科の教員免許を取得しました。亜細亜のテニスクリニックで人にテニスを教える楽しさを感じ、いままでの経験を地元で伝えられたらと思うようにならうのです。堀内先生、森コーチの指導は、いまの私の部活指導の基本になっています。亜細亜での経験が、教師となつた私の私を支えています。

大学4年間で目標を達成するために、誠実にテニスと向き合い努力することで、人として成長し、社会で認められる人間になる——亜細亜はそれができる場所です。目標があるなら、私は亜細亜を選んでほしいと思います。

たかずみひろき 1982年8月20日生まれ。沖縄尚学高等学校。インターハイ団体ベスト8。01年東京農業大学入学。04年野球ベスト4。春闘準ベスト8。04年大学を卒業。05年日本体育大学で体育教員免許取得。06年沖縄尚学高等学校体育教員に就任。現在に至る。

---企業へ--- T&T Company

平成29年度卒業の橋本です。私は高校3年生の春までは他の大学への進学を考えていました。しかし、その年の夏に亜細亜大学の練習に参加させて頂いた際に10面のテニスコート、トレーニング器具が完備されたジム、そして堀内監督を筆頭に多くの実績を誇るスタッフ陣。自分自身のテニスを追求するには十分過ぎる環境だと思い、進学を決意しました。

亜細亜大学は、学生主体で部活動を運営する意識がかなり高いと思います。私は、1年生からレギュラーとして活動し、4年生の時には主将も務めました。試合で上手く結果が出ない、部活動の運営に問題は無いかななど、現在の状況を打破する為にどうすれば良いのか、自分で考えるのはもちろんですが、同期や先輩、後輩と日々話し合い解決策を模索していました。どんな状況でも決断を下すのは学生自身でした。この環境だからこそ自分で考え方力が磨かれ、テニスだけではなく人間性、心の部分が大きく成長したと思います。亜細亜大学での4年間は、私を人として大きく成長させてくれた一生忘れることのない時間だと確信しています。

高校生の皆さん、大学生活は一度きりの人生の中で各個人の中に色濃く残る大切な時間だと思います。そんな貴重な時間を、より良い環境で過ごしてみませんか。亜細亜大学には、

4年間を全すことなく完全燃焼できる環境があります。

現在、私は株式会社NIPPOの営業マンとして日々仕事に従事しています。毎日テニスに没頭していた大学4年間とは環境が大きく変化しましたが、常に人間性を磨き、心の成長を止めないことを考えています。これからも亜細亜大学での経験を活かして、人として大きく成長していきたいと思います。

はじめまして。1995年8月14日生まれ。北海道出身。中学校まで北海道でテニスを続ける。青森県立美浜高等学校を経て、埼玉県立浦和第一高等学校卒業。日本選抜第35回全日本選抜高野テニス大会3位。団体戦甲級25年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)出場。個人戦甲級25年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)出場。2014年亜細亜大学入学。平成28年度競争学生推薦テニス選手権大会 準優勝。文日本大学テニス選手権大会(インカレ) 傑出した2015~2016年間学生リーグ4年間準優勝出場。大学卒業後は株式会社NIPPOへ入社。

橋本大貴

(株式会社NIPPO)

人間性が磨かれた、
亜細亜大学での4年間



恒松拓未

東急電鉄株式会社
亞細亞大学で得た経験



私は、経験豊富なコーチ陣が他の大学よりも多く在籍していること、また、国際大会を運営していることを魅力に感じ、亞細亞大学の入学を決めました。

私が学生時代の中で一番心に残っている言葉は、堀内監督の「社会人になるとミスをすることは許されないから、学生の内にいっぱい挑戦をしてミスを怖がらず挑戦しろ」との言葉でした。国際大会では多くの企業に出向いて国際大会のアピールや協賛をしていただき、企業に対してどう

のような利点があるのかなどを伝えることをしました。また、部活動では副将として部の運営のサポート、勧誘では多くの高校生や高校の先生方、親御さんに亞細亞大学のアピールをして多くの選手を獲得するため尽力しました。

仕事だけではなくテニスに関して多く悩みま

したが1年生の時よりかなり実力、結果ともに成長することが出来たと思います。自分の求められるプレーでどうやって結果を出すことが出来るかをコーチ陣と沢山の時間を使い議論したことには今でも感謝しています。

私自身、現在の仕事では職員同士でのチームワークが必要でミスが絶対に許されない仕事についていますが、学生時代の4年間が楽しく自分の力になっていることを感じ、やってきたことが間違っていないと確信が持てています。

最後になりますが、成長するかしないかは自分自身だと思います。ただ、この亞細亞大学には自分自身をより良い人生に進むことの出来るきっかけがあります。また、プロになれる環境もあります。多くの経験をしてみたい自分を見つけて頑張って欲しいと思います。

（おまつたくみ）1996年1月26日生まれ。埼玉県出身、大崎高校卒業。14年亞細亞大学入学、15年に厚木インカレ予選出場、16年にインカレ本戦、新潟種子優勝、また17年には厚木インカレ予選・複インカレ本戦出場、東関東ベスト8。18年に卒業し、東急電鉄株式会社に入社。現在も東急電鉄株式会社に勤めています。

大学選びに悩んでいる高校生へ伝えたい事は、「チャレンジ出来る環境に身を置いて欲しい。きっと見た事のない絶景が見える」という事です。高校生までの私は、全国大会に出場しても1、2回戦敗退ばかり。大学進学は2部か3部の有名大学に入ろうと考えていました。そんな私が亞細亞大学への進学した大きな理由は、堀内監督の存在です。高校までテニスはやり切ったつもりでしたが、堀内監督の温かく情熱的な

人柄と指導力に惹かれ、大学でも頑張ってみようと思ったのです。そして厳しい練習を乗り越えて迎えた、インカレ、インカレ室内、王座で決勝へ進む事ができました。今でもあの時の感動、あの時の景色を思い出すたびに胸肌が立ちます。それと同時に「亚細亞大学に進んでよかった」と思うのです。皆さんの中には大学卒業後の進路に不安がある方がいるかもしれません。しかし企業は「何かに全力で取り組んで成長した人」を求めています。亚細亞大学では学生主体となって国際大会を運営したり、コーチ陣と同様に国内外のITFの大会に挑戦できます。そのような経験は亚細亞大学テニス部しか出来ない経験です。また、必然的にテニス界での魅がりも広がっていくので、卒業後に実業団を希望する学生に有利です。最後に冒頭でもお伝えした通り、「チャレンジ出来る環境」に飛び込むことで想像以上に充実した経験が出来ると思います。これは経験者である私だからこそ胸を張って伝えられます。

高橋玲奈
（株式会社リコ）

卒業して間もない私だから言えること
チャレンジの先にある絶景を見に飛び込もう

（おまつたくみ）1996年1月26日生まれ。山形県出身。宮城県立宮城高等学校卒業。2010年全日本U16ペア1位。2015年亚細亞大学入学。2018年インカレ優勝優秀、インカレインニア復優秀、王座優秀。2019年に卒業し、リコーに就職。本業はIT活躍中。



高校生諸君、私たち亞細亞大学でいっしょに部活をやろう

すばらしい！

大学に勤めて37年になります。最近では教え子の結婚式に毎月のように招
待されるような歳になりました。ひと回りもふた回りも大きくなった教え子
の成長を見るたびに、ただ驚くばかりです。そこには同期たちも集まっています
から、その成長ぶりにも驚かされてしまいます。

あれほどやんちゃだった学生時代からは想像もできないくらい、社会でもまれ
成長した姿を見るにつけて、たった4年の間だったけれど、ともに過ごした時間の
ありがたさを感じています。同期や同僚たちが披露するエピソードを聞き、スナ
ップ写真を見て、当時を想い出し、私はうなずくばかりです。

入学式に卒業式、そして結婚式と、繰り返される“集合写真”こそ、まさに“部
活”的証。それぞれが眞剣にテニスに取り組み、いっしょに戦ってきたからこそ
選えられる瞬間だと思います。その当時は、そんな未来を想像することもできな
かったでしょうが、大人になり、みんなで再び顔を合わせたときに、“部活”的す
ばらしさを感じてくれていると私は確信しています。

“部活”は一見ややこしそうですが、実はとてもシンプルなものです。

私はいつも学生たちに「できるまでやれ」と指導しています。課題を与えると、
すぐにできるヤツ、すぐにできないヤツ、まったくできないヤツに、できるまでやる
うとしないヤツと、さまざまですが、いずれに対しても“部活”は容赦しません。
ヒントは与えますが、答えは自分で見つけなければならないのです。私が答えを
あげることはあります。答えを見つけるのは自分。見つかるまでにはおそらく
相当な時間がかかります。でも、“待つこと”も私の仕事。そういううち、失敗
してしまうこともありますしありますが、それでもいいと思っています。失敗が教
えてくれるものもある。それがまた、大きな財産となるからです。

コートにはコーチと部員がいますが、最終的には、部員自身が課題を解決する
力を身につけなければ意味がないと思っています。課題や目標を達成する
ために必要となるのは、自身の力であるとともに、重要なのは仲間の力。そのこ
とに気づき、みんなで結束してこそ、乗り越えられるものがあることにも気づいて
ほしいのです。そのことに気づき、その力の大きさを知ったときに、喜びを分
ち合える関係になります。ひとりでは到底できないことにも、みんなの力を合わ
せれば必ず近づくことができる、達成できる。私はそれが“部活”だと思います。

部活って、本当にすばらしい！高校生諸君、私たち亞細亞大学でいっしょに部
活をやろう!!

文 □ 堀内昌一



亞細亞大学テニス部 過去37年間の 主要Topics



斎藤清志学長



1987年 UCLAへ招へい監督の斎藤清志学長

1987年(昭和62年)

- ・斎藤清志学長就任(1987-95年)。一芸入試を導入。(写真①)
- ・堀内昌一が講師およびテニス部監督に就任。

1988年(昭和63年)

- ・男子7部リーグ優勝/6部リーグ昇格
- ・女子5部リーグ3回戦敗退

1989年(平成元年)

- ・男子6部リーグ優勝/5部昇格
- ・女子5部リーグ優勝/4部昇格
- ・亞大初となる全国タイトル。インカレ・インドアで山崎史子が単優勝。
- ・アメリカプログラム(AUAP/正規単位取得型の留学プログラム)開始。

1990年(平成2年)

- ・男子5部リーグ優勝/4部昇格
- ・女子4部リーグ優勝/3部昇格
- ・男子初となる全国タイトル。インカレ・単優勝・森松訓、複優勝・岡田吾二/坂口謙二。
- ・国際關係学部国際關係学科開設。

1991年(平成3年)

- ・男子4部リーグ優勝/3部昇格
- ・女子3部リーグ優勝/2部昇格
- ・日の出トレーニングセンター完成。
- ・海外のITFサーキットに岡田・森・高田の3名が参戦。約4ヶ月間、オーストラリア・アメリカ・韓国を回る。そこで亞大生初となるATPポイントを獲得(岡田3ポイント、森1ポイント)。
- ・第16回ユニバーシアード(イギリス)日本代表選手に森、伊東新、山崎、赤堀奈緒の4名が選ばれる。また堀内昌一監督も日本代表コーチに就任。

1992年(平成4年)

- ・男子3部リーグ優勝/2部昇格
- ・女子2部リーグ優勝/1部昇格
- ・ITFサーキットに単身、宮地弘太郎が遠征(フィルピン)。ATP3ポイント獲得。
- ・女子初となるインカレ・タイトルを獲得。赤堀が単優勝。

1993年(平成5年)

- ・男子2部リーグ優勝/1部リーグ昇格

1994年(平成6年)

- ・女子1部リーグ初優勝/女子王座初優勝(写真②)
- ・全米遠征(93年~97年)で、強豪大学(USC/UCLA/スタンフォードなど)と対抗戦。(写真③)
- ・第17回ユニバーシアード(アメリカ)で赤堀が平木理化(哲学)とのペアで銀メダル獲得。
- ・日本経済短期大学と亞細亞大学が統合、亞細亞大学短期大学部開設。

1995年(平成7年)

- ・男子1部リーグ初優勝/大学王座初優勝(写真④)
- ・女子1部リーグ優勝2連覇/大学王座3位
- ・関東1部リーグで初のアベック優勝。
- ・全日本選手権で、佐藤博康/鈴木政史が学生として33年ぶりに優勝。(写真⑤)
- ・男子1部リーグ優勝2連覇/大学王座2連覇
- ・女子1部リーグ優勝3連覇/大学王座3位
- ・関東1部リーグで2度目のアベック優勝。
- ・全日本選手権男子準々決勝で宮地が決勝進出。
- ・第18回ユニバーシアード(中国)男子準々決勝で宮地が27年ぶりに銅メダルを獲得。
- ・ジャパンオープン男子準々決勝で宮地が3回戦進出(ベスト16)。

1996年(平成8年)

- ・男子1部リーグ優勝3連覇/大学王座3連覇
- ・女子1部リーグ優勝4連覇/大学王座3連覇
- ・関東1部リーグで3度目のアベック優勝。
- ・岡本智子が全日本学生テニス選手権大会、全日本学生室内テニス選手権大会で単優勝
- ・小林愛が関東学生テニストーナメント大会で単優勝。全日本学生室内テニス選手権大会で複優勝
- ・坂井美玲江が関東学生新進テニス選手権大会で単優勝
- ・片倉恵が全日本学生テニス選手権大会で複優勝
- ・鈴木クラウディオ勤が関東学生テニス選手権大会で単優勝
- ・越智亘が全日本学生室内テニス選手権大会で複優勝

#3年女子王座初優勝





94年、男子ダブルスのメダリスト

1997年(平成9年)

- ・男子1部リーグ優勝4連覇/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ優勝5連覇/大学王座2度目の優勝
- ・関東1部リーグで4度目のアベック優勝。
- ・第19回ユニバーシアード(イタリア)女子団体で岡本聖子が銅メダル獲得。
- ・片倉恵が関東学生テニストーナメント大会で複勝優勝
- ・鈴木クラウディオ勤が関東学生テニストーナメント大会で複優勝

1998年(平成10年)

- ・男子1部リーグ優勝5連覇/大学王座4位
- ・女子1部リーグ優勝6連覇/大学王座2度目の優勝(3度目の優勝)
- ・関東1部リーグ5度目のアベック優勝。
- ・コーチ訪問で3週間、岡本聖子がアメリカのITFサーキットに参戦。(写真③)

1999年(平成11年)

- ・男子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ優勝7連覇/大学王座3位
- ・ITFサーキット(アメリカ・メキシコ)参戦。
- ・第20回ユニバーシアード(スペイン)の日本代表監督に堀内昌一が就任。

2000年(平成12年)

- ・男子1部リーグ6度目の優勝/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ8連覇/大学王座準優勝
- ・関東1部リーグは6度目のアベック優勝。

2001年(平成13年)

- ・男子1部リーグ準優勝/大学王座3位
- ・女子1部リーグ4位(関東リーグ9連覇ならず)

2002年(平成14年)

- ・男子1部リーグ3位
- ・女子1部リーグ9度目の優勝/大学王座3位
- ・テニス部専任コーチにOBの森越耕就任。

2003年(平成15年)

- ・男子1部リーグ7度目の優勝/大学王座3位
- ・女子1部リーグ10度目の優勝(写真①)/大学王座4位
- ・関東1部リーグ7度目のアベック優勝。
- ・四大大会のひとつ、オーストラリアン・オープン観戦遠征を開始。以来、有志を募っての恒例行事に。
- ・韓国体育大学と合同合宿。韓国と日本を交互に通勤(03年~06年)

2004年(平成16年)

- ・男子1部リーグ5位/1部残留
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座4位
- ・関東リーグで6位となった男子は、初の2回との入れ替え戦へ。勝利して1部残留が決定。
- ・女子日本代表チームのオーストラリア合宿に宮崎靖雄が参加。

2005年(平成17年)

- ・男子1部リーグ6位/1部残留
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座4位
- ・関東リーグで6位の男子は2度目の2回との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・女子日本代表チームのオーストラリア合宿に、男子は比嘉義人、女子は宮崎靖雄と高橋令が参加。ホブ・フレットコーチの指導を仰ぐ。

2006年(平成18年)

- ・男子1部リーグ5位/1部残留
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・関東リーグで5位の男子は、3度目の2回との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・オーストラリアン・オープン観戦遠征。
- ・コーチ訪問で3週間、オーストラリアのITFサーキットに参戦。

2007年(平成19年)

- ・男子1部リーグ4位
- ・女子1部リーグ3位
- ・男子フューチャーズ「第1回亞細亞大学国際オープン」(1万ドル)を開催。福川智大が本戦1回戦に勝利し、ATP1ポイントを獲得。
- ・国際大会開催にあたり、「チャリティー・テニスクリニック」を始めた。収益のすべてを運営費に充て、年間20回を目標に開催。
- ・アメリカプログラム(AUAP)の参加学生数が1万人突破。

04年、全日本男子ダブルス部門の優勝者・野田はた



06年、インカレを制した岡本聖子





03年10月の開業マーク植樹

- ユニバーシアード(バンコク)の日本代表監督に森恵司が就任。
- 堀内昌一助教授が教授に昇格。
- テニス部強化に尽力を注いだ元学長、斎藤清吉先生逝去。享年84才。

2008年(平成20年)

- 男子1部リーグ4位、女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- 第2回男子フューチャーズ開催。
- スポーツケア・アローズと期間50日間の専属トレーナー契約を交わす。

2009年(平成21年)

- 男子1部リーグ4位、女子1部リーグ6位/2部降格
- 関東リーグで6位の女子は、初の2部との入れ替え戦へ。最後はエース吉本玲穂が敗れて、2部降格へ。1989年に5部で優勝してから王座優勝。その後は常勝し、1部を死守してきたが、ついに力尽きる。
- 第3回男子フューチャーズ開催。

2010年(平成22年)

- 男子1部リーグ5位/1部残留、女子2部リーグ優勝/1部昇格
- 関東リーグで6位の男子は、4度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- 関東リーグ2部で優勝の女子は、1部との入れ替え戦で日本大学に勝利し、1部残留。
- 全日本選手権・混合戦で堀川智大(／瀧間麻里花プロ)が初優勝。
- 第4回男子フューチャーズ開催。
- 森コーナー席同様、ボルトガルのITF女子サーキットに3週間遠征。メンバーは吉本玲穂・完木史織・山本翔子。
- 新しい部室が完成。

2011年(平成23年)

- 男子1部リーグ6位/1部残留、女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- 関東リーグ8位の男子は、5度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- 全日本選手権・混合戦で堀川智大(／田中真樹プロ)が2連覇。
- 第5回男子フューチャーズ開催も、予選サイン当日に東日本大震災が起きる。予選を消化するも、ITF、JTA、春のフューチャーズシリーズ大会ディレクターランチ協賛の結果、大会中止を決定。
- 亞細亞大学建学70周年。

明治との入替競技料移1部残留



- テニス部創部50周年。
- 館室前に駐車場が完成。

2012年(平成24年)

- 男子と並び、女子サーキット第1回亞細亞大学国際女子オープン(11万ドル)を開催。伊波佳苗が準優勝。
- 第6回男子フューチャーズ開催。
- 男子1部リーグ6位/1部残留、女子1部リーグ4位
- 関東リーグ6位の男子は、6度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- 亞細亞大学文部科学省「グローバル人材育成推進事業」採択。

2013年(平成25年)

- 男子1部リーグ5位/2部降格、女子1部リーグ4位
- 関東リーグ5位の男子は7度目の2部との入れ替え戦へ。敗北し、1994年から続いた1部から降格する。
- 亞細亞大学新5号館完成。
- 第7回男子フューチャーズ開催。
- 第2回亞細亞大学国際女子オープン開催。山本翔子が準優勝。

2014年(平成26年)

- 第8回フューチャーズ開催。
- 第3回亞細亞大学国際女子オープン開催。
- 1年生の田中亮寛がインカレ準優勝。
- 男子2部リーグ2位で1部リーグとの入れ替え戦へ。惜しくも敗北し2部残留。
- 女子1部リーグ5位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。

2015年(平成27年)

- 第9回フューチャーズ開催。主将の神村元香が1回戦勝利し、他のATPポイント獲得。
- 第4回亞細亞大学国際女子オープン開催。
- 蛭井沢フューチャーズで田中亮寛が初のATP獲得。準優勝。
- 亞細亞大学の食堂、アジアプラザ完成。
- 男子2部リーグ1位で1部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部昇格。(写真①) / 女子1部リーグ6位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留(写真②)。

日々の入替競技料移1部残留





第6回滋賀県大田の開会式

2016年(平成28年)

- ・亞細亞大学建学75周年。
- ・関東学生新進テニス選手権大会において、山藤彩香が準優勝、田中文彩がベスト4、大塚拓平/伊藤雅絵がベスト8になる。
- ・田中文彩、高橋玲奈が選内監督引率の元、中国ITFに3週間参戦。
- ・第10回フェーチャーズ開催。加藤彰馬が1回戦勝利、初のATPポイントを獲得。
- ・第5回亞細亞大学国際女子オープン開催。高橋玲奈が1回戦を勝利し、WTAポイント獲得(通算7ポイント目)。また、本戦WCDで出場した鶴南美咲/中沢夏帆組がベスト8進出。山藤彩香/田中文彩組(WC)、高橋玲奈/南文乃組(WC)もベスト8進出。
- ・男子1部リーグ6位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。
- ・女子1部リーグ4位で1部残留。

2017年(平成29年)

- ・関東学生新進テニス選手権大会において、男子複数本大賞/恒松祐未組が準優勝になる。
- ・田中文彩、松田美咲が選内監督引率の元、中国ITFに2週間参戦。
- ・加藤彰馬が宮崎精良組コーチ引率の元、インドネシアITFに2週間参戦。ITFからの通達により、今后、男女大会ともに\$10,000から\$15,000へ賞金額増額され開催。
- ・第11回フェーチャーズ開催。
- ・第6回亞細亞大学国際女子オープン開催(写真付)。
- ・関東学生テニストーナメント選手権大会にて、女子單で1年生の松田美咲が準優勝。
- ・男子1部リーグ6位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。
- ・女子1部リーグ4位で1部残留。

2018年(平成30年)

- ・加藤彰馬がHong Kong futuresに1週間参戦。
- ・関東学生新進テニス選手権において、男子複数加藤彰馬/吉田慎組が優勝、女子複数中沢夏帆/大西沙依組が準優勝になる。
- ・第12回フェーチャーズ開催。恒坂拓哉が1回戦勝利、初のATPポイント獲得。また、加藤彰馬/吉田慎組(WC)ベスト8進出。
- ・第7回亞細亞大学国際女子オープン開催。中沢夏帆が1回戦勝利、WTAポイント獲得。また、高橋玲奈/中沢夏帆組(WC)がベスト8進出。
- ・関東学生テニストーナメント大会にて、女子單で4年生の高橋玲奈がベスト4、2年生の松田美咲/朝倉菜月ペアが準優勝。
- ・松田美咲が関東オープンテニス選手権大会準優勝。
- ・全日本学生テニス選手権大会にて、女子單で4年生の中沢夏帆がベスト4、2年生の松田美咲が準優勝、女子複数4年生の高橋玲奈/中沢夏帆が準優勝。

・男子1部リーグ6位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。

- ・女子1部リーグ準優勝で大学王座へ。
- ・大学王座にて決勝戦で早稲田大学に敗れ準優勝。
- ・全日本テニス選手権にて、女子單で2年生の松田美咲がベスト4、女子複数4年生の高橋玲奈/中沢夏帆がベスト8。
- ・熊坂拓哉、高見澤岳飛がThailand F8 futuresに1週間参戦。
- ・松田美咲がW15 Nonthaburiにて準優勝。
- ・全日本学生室内テニス選手権大会にて、男子單で3年生の加藤彰馬がベスト8、男子複数3年生の加藤彰馬/櫻川泰典(日本大学)がベスト8、女子單で2年生の松田美咲が準優勝、女子複数4年生の高橋玲奈/中沢夏帆が優勝、2年生の松田美咲/新倉東吾がベスト8。

2019年(平成31年)

- ・熊坂拓哉、高見澤岳飛、松田美咲がトルコITFに2週間参戦。
- ・関東学生新進テニス選手権大会にて、男子複数高橋輔/工藤眞人がベスト8。
- ・第13回亞細亞大学国際オープンテニス開催。
- ・第8回亞細亞大学国際女子オープン開催。また、南文乃/朝倉菜月組(WC)がベスト8進出。
- ・関東学生テニストーナメント大会にて男子單工藤眞人がベスト4、女子複数南文乃/中島美夢が準優勝、松田美咲/朝倉菜月がベスト4。
- ・W15 Gyeongjuにて、松田美咲が準優勝。
- ・関東学生テニス選手権大会にて、男子單高見澤岳飛が準優勝、男子複数加藤彰馬/高見澤岳飛が準優勝、女子複数南文乃/朝倉菜月が準優勝。
- ・男子1部リーグ4位で1部残留。
- ・女子1部リーグ5位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。
- ・熊坂拓哉、高見澤岳飛がM15 Changwonにて1週間参戦。
- ・W2 Taowooitbetにて女子複数松田美咲/鶴川晴菜(青山スポーツ)が準優勝。
- ・全日本テニス選手権にて女子複数吉田慎組/松本安莉(山梨学院大学)がベスト8、伊藤さつき/中島美夢がベスト16。
- ・全日本学生室内テニス選手権大会にて、女子單松田美咲が優勝。

2020年(令和2年)

- ・関東学生新進テニス選手権大会にて、男子複数内南輔/熊坂拓哉が準優勝。女子單伊藤さつきが優勝。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、亞細亞大学国際オープンテニス2020が中止となる。
- ・関東学生テニストーナメント大会にて、男子單熊坂拓哉が準優勝、高見澤岳飛がベスト8。男子複数熊坂拓哉/堀内竜輔組が優勝、権藤卓巳/古藤圭太組がベスト8。女子單山崎悠美が準優勝、中島美夢がベスト8。女子複数伊藤さつき/中島美夢組がベスト4。山崎都美/吉川ひかる組がベスト4。
- ・全日本学生テニス選手権大会にて、男子單高見澤岳飛、清口昌季がベスト8。

2020年
春季第38回
冬季第64回
全日本学生テニス選手権大会



2020年度インカレ男子団



2020年度インカレ女子団優勝の山崎裕美

16. 男子複数坂拓哉/塙内竜輔組がベスト16。女子単山崎裕美がベスト4。松田美咲がベスト8。女子複伊藤さつき/中島美夢組がベスト16(写真①)。
・全日本学生室内テニス選手権大会にて、男子単数坂拓哉がベスト4。瀬尾澤岳飛、清口昌季がベスト8。女子単松田美咲が2連覇を果たす。山崎裕美がベスト4(写真②)。

2021年(令和3年)

・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、亞細亞大学国際オープンテニス2022が中止となる。
・関東学生テニストーナメント大会にて、男子単で清口昌季/目黒志和、岡悠多がベスト16。吉藤義大、椎藤卓巳、吉川大がベスト64。男子複で阿笠多/石井哲也ペア、清口昌季/目黒志和ペアがベスト16。吉藤義大/椎藤卓巳ペアがベスト32。女子単では山崎裕美がベスト4。吉川ひかる、齋藤瑞奈がベスト16。中島美夢、沼野菜海がベスト32。女子複で伊藤さつき/中島美夢ペアが優勝。中山麗未/吉川ひかるペアがベスト16。児山心美/富永栄ペアがベスト32。
・男子単で清口昌季/目黒志和、岡悠多がベスト32。男子複で清口昌季/目黒志和ペアがベスト16。吉藤義大/椎藤卓巳ペアがベスト32。岡悠多/石井智也ペアがベスト32。女子単では、山崎裕美がベスト8。吉川ひかる、齋藤瑞奈がベスト32。女子複では、山崎裕美/安井愛乃ペアがベスト8。中山麗未/吉川ひかるペアがベスト16。伊藤さつき/中島美夢ペアがベスト32。
・全日本学生室内テニス選手権大会にて、男子単で目黒志和がベスト16。清口昌季がベスト32。女子単で山崎裕美がベスト8。中島美夢がベスト16。伊藤さつき、吉川ひかるがベスト32。女子複では安井愛乃/山崎裕美ペアがベスト8。中山麗未/中島美夢ペア、伊藤さつき/吉川ひかるペアがベスト16(写真③)。

2022年(令和4年)

・関東学生テニストーナメント大会にて女子単では中島美夢、齋藤瑞奈がベスト16。山崎裕美、吉川ひかる、國城海遼、富永栄、沼野菜海がベスト32。女子複では中山麗未/中島美夢ペア、安井愛乃/山崎裕美がベスト8。沼野菜海/齋藤瑞奈ペアがベスト16。伊藤さつき/吉川ひかるペアがベスト32。

・全日本学生テニス選手権大会にて、女子単で山崎裕美が初優勝。吉川

2021年度インカレ男子団



ひかるがベスト16。伊藤さつき、中島美夢、齋藤瑞奈、富永栄がベスト32。女子複では伊藤さつき/吉川ひかるペアがベスト4。中山麗未/中島美夢ペア、安井愛乃/山崎裕美ペアがベスト16。沼野菜海/齋藤瑞奈ペアがベスト32。

・全日本テニス選手権大会にて女子複で伊藤さつき/吉川ひかるペアがベスト16。

・関東学生テニス選手権大会にて女子複では沼野菜海がベスト4、伊藤さつき、富永栄がベスト16。中島美夢、吉川ひかるがベスト32。

・W25 Nanaoにて、山崎裕美が復優勝。

・W25 Makinoharaにて、山崎裕美が単優勝。

・W25 Hamamatsuにて、山崎裕美が単優勝。

・W25 Bungotakataにて、山崎裕美が複優勝。

・W40 Bungotakataにて、山崎裕美が単優勝。

・山崎裕美がインドネシアITFに3連戦参戦。

・第9回亞細亞大学国際女子オープン開催。

・男子1部リーグ6位/2部優勝

・女子1部リーグ3位で1部残留

2023年(令和5年)

・関東学生テニストーナメント大会にて、女子単では沼野菜海がベスト8、吉川ひかるがベスト16。児山心美、松村潤奈がベスト32。女子複では吉川ひかる/富永栄ペアがベスト8。児山心美/齋藤瑞奈ペア、國城海遼/沼野菜海ペアがベスト16。高橋礼奈/小島川莉桜ペア、佐久間向日葵/菊地詩加ペアがベスト32。

・全日本学生テニス選手権大会にて、女子単では山崎裕美がベスト4、富永栄、沼野菜海がベスト16。吉川ひかる、齋藤瑞奈がベスト32。女子複では吉川ひかる/富永栄ペアがベスト4。國城海遼/沼野菜海ペア、山崎裕美/長谷川実香ペア、高橋礼奈/小島川莉桜ペアがベスト32。

・全日本室内テニス選手権大会にて女子複で吉川ひかるが優勝。

・関東学生テニス選手権大会にて女子単では沼野菜海が優勝。吉川ひかる、齋藤瑞奈がベスト16。長谷川実香がベスト32。女子複では吉川ひかる/富永栄ペアが優勝。児山心美/齋藤瑞奈ペア、沼野菜海/長谷川実香ペアがベスト8。加藤瑞華/高橋礼奈ペア、小島川莉桜/松村潤奈ペアがベスト32。

・第14回SLCsグループ株式会社久我Presents亞細亞大学国際男子テニストーナメント、第10回亞細亞大学国際女子オープン開催。

・男子2部リーグ3位で2部残留。

・女子1部リーグ2位で1部残留、王座準優勝



関東大学テニスリーグ&全日本大学対抗テニス王座決定試合

年度	関東大学リーグ		大日本学生	
	男子	女子	男子	女子
1988年(昭和63年)	6部昇格	5部		
1989年(平成元年)	5部昇格	4部昇格		
1990年(平成2年)	4部昇格	3部昇格		
1991年(平成3年)	3部昇格	2部昇格		
1992年(平成4年)	2部昇格	1部昇格		
1993年(平成5年)	1部昇格	優勝		優勝
1994年(平成6年)	優勝	優勝	優勝	3位
1995年(平成7年)	優勝	優勝	優勝	3位
1996年(平成8年)	優勝	優勝	準優勝	準優勝
1997年(平成9年)	優勝	優勝	準優勝	優勝
1998年(平成10年)	優勝	優勝	4位	優勝
1999年(平成11年)	準優勝	優勝	準優勝	準優勝
2000年(平成12年)	優勝	優勝	準優勝	準優勝
2001年(平成13年)	準優勝	4位	3位	
2002年(平成14年)	3位	優勝		3位
2003年(平成15年)	優勝	優勝	3位	4位
2004年(平成16年)	5位	準優勝		4位
2005年(平成17年)	6位	準優勝		4位
2006年(平成18年)	5位	準優勝		準優勝
2007年(平成19年)	4位	3位		
2008年(平成20年)	4位	準優勝		準優勝
2009年(平成21年)	4位	2部昇格		
2010年(平成22年)	5位	1部昇格		
2011年(平成23年)	6位	準優勝		準優勝
2012年(平成24年)	6位	4位		
2013年(平成25年)	2部降格	4位		
2014年(平成26年)	2部1位	1部5位		
2015年(平成27年)	1部昇格	1部6位		
2016年(平成28年)	1部6位	1部4位		
2017年(平成29年)	1部6位	1部4位		
2018年(平成30年)	1部右位	準優勝		準優勝
2019年(平成31年)	1部4位	1部5位		
2020年(令和2年)	新型コロナウイルス感染拡大の為中止			
2021年(令和3年)	1部校による王座出場校決定トーナメントで男女1P敗退			
2022年(令和4年)	2部降格	1部3位		
2023年(令和5年)	2部3位	1部2位		準優勝



令和5年度全日本大学対抗テニス王座決定試合F3



2019年度関東大学テニスリーグ最終結果



平成30年度全日本大学対抗テニス王座決定試合F3

亞細亞大学テニス部 過去(1988年-)の主な戦績

個人思想

年齢	出場選手	インバウンド			インバウンド	
		U	I	D	本	外
	上原千絵	ベスト16	ベスト16			本級
	鈴木智惠	ベスト16				本級
	江藤千恵子	ベスト32	ベスト16			本級
	高畠 麻	ベスト32	ベスト16			本級
	大曾山理穂	ベスト32	ベスト8			
	波多野千子			ベスト8		本級
2004年 平成16年度	男子	伊東 純	優勝	ベスト4		
		吉田弘太郎	準優勝	ベスト4		
		高橋泰介	ベスト8	ベスト8	準優勝	
		土屋哲史	ベスト16	ベスト8	ベスト8	
		内村和也	ベスト16	準優勝		
		坂井雅志	ベスト32	ベスト4		本級
		山下大介		準優勝	優勝	
		前田政史				準優勝
		久保美也		ベスト16		
		鈴田実理		ベスト16		
2005年 平成17年度	女子	吉田直知	準優勝	準優勝	本級	準優勝
		横尾一哉	ベスト8	準優勝	2位	準優勝
		土方千代	ベスト32	ベスト8	優勝	
		鶴田麻由				優勝
		鷲本吉弘				優勝
		鶴賀 哲				優勝
		鷲本吉弘				優勝
		鷲賀 哲				優勝
		鷲本吉弘				優勝
		鷲賀 哲				優勝
2006年 平成18年度	男子	鷲本吉弘	優勝	ベスト16		
		吉田政史	ベスト8	優勝		
		高橋泰介	ベスト8	ベスト8		
		山下大介	ベスト16	準優勝	2位	
		坂井雅志	ベスト16	ベスト8		
		鈴木一也	ベスト32			
		土屋哲史		ベスト8		
		鷲本吉弘				優勝
		鶴賀 哲				優勝
		鷲本吉弘				優勝
2007年 平成19年度	女子	鷲井雅志	ベスト8	ベスト4	準優勝	
		吉田政史	ベスト8	ベスト4	2位	
		坂井雅志	ベスト16	ベスト16	準優勝	
		小林 雪	ベスト16	ベスト16	3位	優勝
		吉田 駿	ベスト16			
		吉田政史	ベスト32	ベスト16		
		鷲賀 哲				優勝
		鷲本吉弘				優勝
		鷲賀 哲				優勝
		鷲本吉弘				優勝
2008年 平成20年度	男子	吉田政史	ベスト8		本級	
		吉田政史	ベスト8	ベスト4		
		鷲賀 哲	ベスト16			
		鷲本吉弘	ベスト32	ベスト16	準優勝	
		山下大介	ベスト32	ベスト4		準優勝
		鷲本吉弘	ベスト32	ベスト16	準優勝	
		鷲賀 哲				
		鷲本吉弘				
		鷲賀 哲				
		鷲本吉弘				
2009年 平成21年度	女子	鷲井雅志	準優勝	ベスト4	準優勝	
		鷲井雅志	ベスト8			
		鷲賀 哲	ベスト8			
		吉田 駿	ベスト16			
		吉田政史	ベスト32	ベスト4		優勝
		鷲賀 哲	ベスト32	ベスト8		
		鷲本吉弘	ベスト32	ベスト16	準優勝	
		鷲賀 哲				
		鷲本吉弘				
		鷲賀 哲				
2010年 平成22年度	男子	吉下誠二	ベスト16		本級	
		鷲井雅志	ベスト16			
		山川真吾	ベスト16			
		鷲賀 哲	ベスト32	準優勝	本級	ベスト4
		鷲本吉弘	準優勝			ベスト4
		鷲賀 哲	ベスト32	ベスト16		
		吉田政史	ベスト32	ベスト8		優勝
		鷲本吉弘	ベスト32	ベスト16		
		鷲賀 哲				
		鷲本吉弘				
2011年 平成23年度	女子	鷲井雅志	準優勝	ベスト4	準優勝	
		鷲井雅志	ベスト8			
		鷲賀 哲	準優勝			
		吉田 駿	ベスト16			
		吉田政史	ベスト32	ベスト4		優勝
		鷲賀 哲	ベスト32	ベスト8		
		鷲本吉弘	ベスト32	ベスト16	準優勝	
		鷲賀 哲				
		鷲本吉弘				
		鷲賀 哲				
2012年 平成24年度	男子	吉下誠二	ベスト16	ベスト16		
		鷲井雅志	ベスト16			
		吉下誠二	ベスト16			
		鷲井雅志	ベスト32	ベスト16		
		吉田政史	ベスト32	ベスト16		
		鷲賀 哲	ベスト32	ベスト16		
		鷲本吉弘	ベスト32	ベスト16		
		鷲賀 哲				
		鷲本吉弘				
		鷲賀 哲				

年齢	出場選手	A		B		
		年	月	年	月	
1999年	石井理美	1999	5	1999	5	
	辻 道哉	1999	6	1999	6	
	女子	川本恵子	優勝	1999	7	
	木村加昌子	1999	8	1999	8	
	横井佑希	1999	9	1999	9	
	田口恵子	1999	10	1999	10	
	金井麻衣子	1999	11	1999	11	
	片山 晃	1999	12	1999	12	
	森美志子	1999	13	1999	13	
	高井恵子	1999	14	1999	14	
2000年	男子	玉林洋子	優勝	1999	15	
	石井理美	1999	16	1999	16	
	三好一樹	1999	17	1999	17	
	土 岩昌	1999	18	1999	18	
	田口恵子	1999	19	1999	19	
	川本恵子	1999	20	1999	20	
	横井佑希	1999	21	1999	21	
	片山 晃	1999	22	1999	22	
	森美志子	1999	23	1999	23	
	高井恵子	1999	24	1999	24	
2001年	女子	川本恵子	優勝	1999	25	
	田口恵子	1999	26	1999	26	
	金井麻衣子	1999	27	1999	27	
	片山 晃	1999	28	1999	28	
	横井佑希	1999	29	1999	29	
	川野義理	1999	30	1999	30	
	小川 順	1999	31	1999	31	
	日林理美	1999	32	1999	32	
	横井佑希	1999	33	1999	33	
	二好 勝	1999	34	1999	34	
2002年	男子	大庭敏輝	1999	35	1999	35
	片 美士	1999	36	1999	36	
	宮崎慎彦	1999	37	1999	37	
	川野義理	1999	38	1999	38	
	比 謙馬	1999	39	1999	39	
	横井佑希	1999	40	1999	40	
	石井将一	1999	41	1999	41	
	女子	田口恵子	優勝	1999	42	
	金井麻衣子	1999	43	1999	43	
	平井恵子	1999	44	1999	44	
2003年	女子	水野吉子	1999	45	1999	45
	五藤友利	1999	46	1999	46	
	川野義理	1999	47	1999	47	
	比 謙馬	1999	48	1999	48	
	横井佑希	1999	49	1999	49	
	石井将一	1999	50	1999	50	
	女子	北島玲子	優勝	1999	51	
	横井佑希	1999	52	1999	52	
	平井恵子	1999	53	1999	53	
	五藤友利	1999	54	1999	54	

年齢	出場選手	A		B		
		年	月	年	月	
2004年	北島玲子	2004	1	2004	1	
	西村一郎	2004	2	2004	2	
	大庭敏輝	2004	3	2004	3	
	宇喜和二	2004	4	2004	4	
	河内真貴	2004	5	2004	5	
	小松優介	2004	6	2004	6	
	佐治聰介	2004	7	2004	7	
	吉坂泰裕	2004	8	2004	8	
	鈴木直也	2004	9	2004	9	
	山本久司	2004	10	2004	10	
2005年	女子	鈴木直也	2004	11	2004	11
	東山久司	2004	12	2004	12	
	宇喜和二	2004	13	2004	13	
	吉坂泰裕	2004	14	2004	14	
	鈴木直也	2004	15	2004	15	
	山本久司	2004	16	2004	16	
	高橋一也	2004	17	2004	17	
	河内真貴	2004	18	2004	18	
	鈴木直也	2004	19	2004	19	
	吉坂泰裕	2004	20	2004	20	
2006年	女子	鈴木直也	2004	21	2004	21
	大庭敏輝	2004	22	2004	22	
	山本久司	2004	23	2004	23	
	高橋一也	2004	24	2004	24	
	河内真貴	2004	25	2004	25	
	鈴木直也	2004	26	2004	26	
	吉坂泰裕	2004	27	2004	27	
	鈴木直也	2004	28	2004	28	
	吉坂泰裕	2004	29	2004	29	
	鈴木直也	2004	30	2004	30	
2007年	女子	鈴木直也	2004	31	2004	31
	大庭敏輝	2004	32	2004	32	
	山本久司	2004	33	2004	33	
	高橋一也	2004	34	2004	34	
	河内真貴	2004	35	2004	35	
	鈴木直也	2004	36	2004	36	
	吉坂泰裕	2004	37	2004	37	
	鈴木直也	2004	38	2004	38	
	吉坂泰裕	2004	39	2004	39	
	鈴木直也	2004	40	2004	40	
2008年	女子	鈴木直也	2004	41	2004	41
	大庭敏輝	2004	42	2004	42	
	山本久司	2004	43	2004	43	
	高橋一也	2004	44	2004	44	
	河内真貴	2004	45	2004	45	
	鈴木直也	2004	46	2004	46	
	吉坂泰裕	2004	47	2004	47	
	鈴木直也	2004	48	2004	48	
	吉坂泰裕	2004	49	2004	49	
	鈴木直也	2004	50	2004	50	
2009年	男子	大庭敏輝	2004	51	2004	51
	片 美士	2004	52	2004	52	
	宮崎慎彦	2004	53	2004	53	
	川野義理	2004	54	2004	54	
	比 謙馬	2004	55	2004	55	
	横井佑希	2004	56	2004	56	
	石井将一	2004	57	2004	57	
	女子	北島玲子	2004	58	2004	58
	横井佑希	2004	59	2004	59	
	平井恵子	2004	60	2004	60	
2010年	女子	水野吉子	2004	61	2004	61
	五藤友利	2004	62	2004	62	
	川野義理	2004	63	2004	63	
	比 謙馬	2004	64	2004	64	
	横井佑希	2004	65	2004	65	
	石井将一	2004	66	2004	66	
	女子	北島玲子	2004	67	2004	67
	横井佑希	2004	68	2004	68	
	平井恵子	2004	69	2004	69	
	五藤友利	2004	70	2004	70	

年度	出場選手	出場回数	得点	得点
2008年 平成21年度	高橋ひづる	2回	△C3-16	
	高木文理	本組		
	高橋眞衣	本組		
	井上貴博	△C3-8	△C3-8	△C3-8
	福川聰大	△C3-16	△C3-8	△C3-8
	牛田義之	△C3-32	△C3-32	
	三浦一樹	2回		
	土屋拓大	△C3-32		
	田村裕介	2回	本組	
	丹波一力	本組		
2009年 平成22年度	大河内洋	△C3-16	△C3-16	△C3-8
	高木文理	2回	△C3-16	
	高橋眞衣	本組		
	井上貴博	△C3-8		
	福川聰大	△C3-8		
	牛田義之	△C3-32		
	三浦一樹	2回		
	土屋拓大	△C3-32		
	田村裕介	2回	本組	
	丹波一力	本組		
2010年 平成23年度	男子	井上貴博	△C3-16	△C3-16
		土屋拓大	2回	△C3-4
		福川聰大	△C3-8	△C3-8
		田村裕介	2回	本組
		牛田義之	△C3-32	
		高橋義平	本組	
		高木文理	—	本組
		高木一樹	△C3-8	
		丹波一樹	△C3-32	
		井上貴博	△C3-16	
2011年 平成24年度	女子	高木文理	△C3-16	△C3-16
		山本裕子	△C3-16	△C3-16
		鈴木愛子	2回	
		高木文理	2回	△C3-8
		伊達佳奈	2回	△C3-32
		高橋眞衣	△C3-32	
		田村裕介	△C3-32	
		牛田義之	△C3-32	
		高木文理	△C3-16	
		高木文理	△C3-32	
2012年 平成25年度	男子	田村裕介	△C3-32	△C3-32
		井上貴博	△C3-32	
		高木文理	△C3-32	△C3-32
		伊達佳奈	△C3-32	
		高橋眞衣	△C3-32	
		丹波一樹	△C3-32	
		井上貴博	△C3-32	
		高木文理	△C3-32	
		高木文理	△C3-32	
		高木文理	△C3-32	
2013年 平成26年度	女子	高木文理	△C3-32	△C3-32
		山本裕子	△C3-32	△C3-32
		鈴木愛子	2回	
		高木文理	△C3-32	△C3-32
		伊達佳奈	2回	
		高橋眞衣	△C3-32	
		丹波一樹	△C3-32	
		井上貴博	△C3-32	
		高木文理	△C3-32	
		高木文理	△C3-32	
2014年 平成27年度	男子	山野道馬	△C3-32	
		林元希	本組	
		田中涼葉	△C3-8	△C3-10
		高木文理	本組	
		高木文理	△C3-32	
2015年 平成28年度	男子	高木文理	△C3-32	△C3-8
		高木文理	△C3-16	
		高木文理	△C3-32	
2016年 平成29年度	女子	高木文理	△C3-32	△C3-8
		高木文理	△C3-32	

年度	出場選手	出場回数	得点	得点
2017年 平成29年度	高木文理	2回	△C3-32	
	高木文理	△C3-32		
2018年 平成30年度	高木文理	△C3-32		
	高木文理	△C3-32		
2019年 平成31年度	高木文理	△C3-32		
	高木文理	△C3-32		
2020年 令和2年度	高木文理	△C3-32		
	高木文理	△C3-32		
2021年 令和3年度	高木文理	△C3-32		
	高木文理	△C3-32		
2022年 令和4年度	高木文理	△C3-32		
	高木文理	△C3-32		

年月	出場選手	インカレ		インターハイ	
		3	4	3	4
	南城奈津 山崎麗波	本組 優勝	ペスト36 ペスト36		
	宮川日向子 吉野理音	ペスト16 ペスト32	ペスト16 ペスト32	本組 本組	ペスト36 ペスト36
	森永美 吉村九日	ペスト36 本組		本組 本組	ペスト36 ペスト36
2023年 令和5年度 女子	田野早希 山崎麗波	ペスト32 ペスト36	本組 ペスト32	本組 本組	ペスト16 ペスト16
	吉川江里子 児玉心美	ペスト16 本組	ペスト4 本組	ペスト16 ペスト16	ペスト16 ペスト16
	吉野理音 高橋美穂	ペスト32 ペスト16	本組 ペスト4	本組 ペスト36	ペスト16 ペスト16
	森永美 小畠川羽佳	ペスト32 ペスト32	ペスト32 ペスト32	ペスト36 ペスト36	ペスト16 ペスト16
	長谷川麻耶 松村詩音	2R 2R	ペスト32 ペスト16	本組 ペスト16	ペスト16 ペスト16



インカレインカレ2連覇の長谷川美穂



2022年度インカレ優勝の山崎理音



2022年度インカレ優勝ペスト4の伊藤・吉川ペア

亞細亞の部活

入学前から卒業までの流れ

入学前

高校3年 ⇒ 大学1年

大切な時間 大学入学前から部活は始まっている

12月

年末合宿(12月20日~27日)

練習内容

- ・学生は全国各地から延べ100名を超す参加者(高校生・中学生)とともに練習やトレーニングを行なう。後輩たちとともにに行なうことにより、テニスの基礎を確認、時間をかけて徹底的に基礎を磨く。



ときにOB、OGやプロ(スペシャルゲスト)も登場。レクチャーを受ける高校生や部員たち



全員コンチネンタルグリップへ移行

オリエンテーション

- ・部員が作成したカレンダーに基づいて、翌年1年間のスケジュールを説明。
- ・4月からスタートする大学生活、特に授業に関する説明がある(1年間で必要な124単位に関して)。1年生での単位数取得の方法とその重要性などのレクチャーを受ける。
- ・「テニス発見ノート」を作成。
- ・翌年2月から始まる合宿までの宿題となるのが読書。「五輪の書」と「不毛地帯」を読み、後日感想文を提出。



「五輪の書」と「不毛地帯」

1月

・冬休み(故郷へ帰省する学生が多い)

- ・四大大会のひとつ、オーストラリアン・オープン観戦。有志を募り、学生や監督・コーチとともにメルボルンへ。予選および本戦を観て、肌で「世界のテニス」を感じる(1月10日前後~20日前後まで)。



監督・コーチと同じ部屋で、夜中もテレビを見ながら談笑



オーストラリアン・オープンの様子
タコート

2月

・高校を卒業した学生から2月の合宿に参加(12月末合宿での宿題提出)。

- ・大学1年間でのテニス活動における準備(基礎体力や基礎技術の改善)。

- ・翌3月に大学で開催する男女の国際大会の準備をする。
- ・これからの生活拠点、活動の準備をする。
- ・国際大会参加を想定し、ITFのI-pin(アイ・ピン)登録と春の男子フューチャーズ、女子サーキットへの申し込みを行なう。

3月

・基礎練習から応用練習への移行期。

- ・体力強化を継続する。

- ・月末から始まる男子フューチャーズと女子サーキットへの参加を目指すとともに、大会運営に参加する。



スーパー・バイザーから面倒のレクチャーなどを受ける学生

4年間の目標を考える。 学生は本物を学べ!!

- Ever Upward「自らの可能性は、それを信じ続けた者だけが実現できる」(亞細亞大テニス部テーマ)の実行
- スポーツマンシップの獲得。人間的成長を目指す。
- 大学王座・インカレ・全日本選手権など主要大会での優勝を視野に置く。
- 海外などへ積極的に進出し、世界ランキングに必要なATP・WTAポイント獲得を目指す。
- 亞細亞大テニス部が使う重要ワード～意識改革／できるまでやる／適当や嘘を一切無くす／時間を大切にする
- そして、卒業する！

大学

1年

- 1年間で40単位取りきれるように努力する。
- 体力、技術、精神の向上を目指す。
- 基礎体力、基礎技術の取得。
- 大学テニス界での自分の位置を確立すること。春／夏の関東学生での予選突破や本戦での活躍。インカレでの活躍。学生ランキングを上げること。
- 新しい生活に慣れ、部活動とともに大学生生活においての自分のベースを確立すること。

大学

2年

- さらに40単位を取り、3年生で124単位取り切れるように努力する。
- 勝負の年にする。
- 体力、技術力のさらなる向上。
- 積極的に対外試合や国内一般トーナメントに参加する。
- 目標を忘れず、周りに流されないこと。

大学

3年

- 3年生終了時に、124単位を取り切れるように努力する。
- 勝負の年を充実させていく。
- 海外遠征や国内トーナメントなどに積極的に参戦する。
- 卒業後のことを見据えて、思いきりチャレンジする。
- 卒業後に向けて進路を決定していく。部活動をきちんとこなしながら就職活動を行なう。

大学

4年

- 4年間の集大成として、思いきり勝負する(そういうように1～3年生をコツコツと精一杯努力していくことが重要)。
- 積極的に海外遠征でチャレンジする。
- 卒業後の準備をする(プロ、実業団、指導者、教員、一般社会人など、それぞれの道へ)。
- 教職科目を履修している学生は、母校にて教育実習を行なう。

Aプロジェクト

亞細亞テニス部員が4年間かけて達成することを
“Aプロジェクト”と呼ぶ

- JTA(全日本ランキング)100位以内を目指す。(男子1243位～1位、女子658位～1位)そして、全日本選手権への出場、活躍を目指す。

- 年間52週のうち3分の1の休みをうまく活用してオープン大会へ積極的に参加、ランキングを上げる。
- テニスの戦略&戦術を学び、必要な技術に

- 磨きをかけていく。
- 基礎体力の向上を目標に計画性をもたらし、目標達成の原動力にする。

戦術の研究 情報・理論の収集・勉強

コーチングスタッフは、ユニバーシアード元日本代表選手、全日本チャンピオン、インカレチャンピオン、グランドスラム出場経験者など。その経験を生かし、年間の練習プラン、メニュー作成から、実戦練習、戦術、ゲーム研究までを学生といっしょに行なう。

- 校内監督によるテニス講義「戦略と戦術」について、それに必要な「9つのボール調整」「ナチュラルスピンサービス」などが考え方のベースとなる。
- 部室には、テニス、トレーニングに関する1000冊を超える書籍やテニス関連の映像教材が設置されていて、自由に利用できる。
- 毎年1月に行なわれるオーストラリアン・オープン観戦の遠征や、国内主要大会観戦(テ杯・フェド杯・ジャパン・オープン・東レPPO・全日本)に積極的に出掛けて、理論を勉強する。情報収集の重要性。
- 主催する男女国際大会でのゲーム分析(サービス、リターンの確率、エース・ミスの調査比較など)。出場学生のほか、参加選手のデータ収集も可能となり、非常に有効な情報収集、研究の場となる。
- 自身の練習や試合を撮影し、部室のテレビなどを使ってチェック、改善に役立てる。
- 主催大会のゲーム映像を部室の大画面テレビで研究。
- 関東大学テニスリーグなどのゲーム分析。
- 時間や空間、場所取りなどテニスにおける戦術をゲーム分析含め映像やデータなどから読み取り、実際に役立つように整理し修得する。

試合後のミーティングが特に重要

「アーメントを終えたあとは、コーチングスタッフミーティングを行なう。反対をもとに改善点を洗い出し、その後練習をしたり、メニューを作成し実践していく」

卒業生のプロたちも学生を強力サポート

卒業生が選手活動において活躍する。大会の会場に練習に参戦し、学生と一緒に活動している。心は、体を学生とともに鍛え、競争上げていくこと。これが卒業生たちの、今後の各種団体の大仕事だ。卒業生プロたちは、卒業後も大学をホームコートとして活用している。

私たち亞細亞大学が"国際大会"を開催するには意味がある

2024年国際大会開催レポート

SLCsグループ株式会社久我 Presents

亞細亞大学国際男子テニストーナメント2024
亞細亞大学国際女子テニストーナメント2024

- 男子予選：3月10日～11日 ●男子本戦：3月12日～3月17日
- 女子予選：3月17日～18日 ●女子本戦：3月19日～3月24日
- 開催場所：亞細亞大学日の出キャンパス
- 賞金総額：男子\$15,000/女子\$15,000



はじめに

本学主催の国際大会は、5年ぶりに男女両大会を開催し、男子大会は14回目、女子大会は10回目を迎えることが出来ました。今年は男子シングルスではYan BAI(中国)選手、男子ダブルスはLEE.Jemoon選手・SONG.Minkyu選手(KOR)ペアが優勝し、女子シングルスではMANASSE.Maegan(USA)選手、女子ダブルスでは富永菜選手・吉川ひかる選手ペアが優勝しました。

多くの方のご支援、ご協力のおかげで5年ぶりに男女両大会を開催でき、無事に大会を終了することができました。本当にありがとうございました。

学生からの発信で拙い部分もありますがこのレポートを通して、日本テニス界の明るい未来に向けて、この大会を開催する意義を少しでも伝えられたら幸いです。

国際大会の仕組み

グランドスラムに出場するためには、世界各国で開催されている国際大会に出場して世界ランキングを200位くらいまで上げなければ予選にも出場することができません。

図1と図2をご覧ください。この図のように、亞細亞大学テニス部が開催しているフェューチャーズ・サーキット大会はピラミッドの最下部に位置しています。憧れの舞台への登竜門なのです。フェューチャーズ・サーキット大会に出場し、地道にポイントを積み重ねていくことで活躍できる舞台と自分のレベルを高めていくことができます。最下部の大会に出場することができます。



図1



図2

開催するにあたって

「Opportunity=機会」をもとにこの大会は開催されました。この言葉は亞細亞大学が国際大会を開催するにあたり最も大切にしていることです。

大会を運営する機会、お金を貰うことにより企業の方と関わる機会、WC予選を開催することでジュニア・大学生・一般の方にも世界ランキングを獲得する機会、地域の方と関わる機会。多くの機会を得ることができます。

また、コロナ禍によって大会の数の数はどれだけ減り、日本人選手のランキングがどれだけ代わったのかを学生で調べてフェューチャーズを開催する意義を調べてきました。また、男女大会の開催となり資金が集まるか不安もありましたが、去年の大会運営の経験を活かし、近内監督をはじめ、スタッフの方々やOB・OGの方の協力もあり準備を進めて行くことができました。

ADをさせてもらい感じた事・学んだ事

今大会は男女での開催となり、開催地は日本でありましたが、男女合わせて11カ国もの国から、私たちが運営する亞細亞大学国際テニストーナメント大会に出場がありました。

昨年は、女子大会のみの開催でしたが、6カ国もの国から出場があり、海外の選手から多くの刺激を感じることが出来ました。今年は更に色々な11カ国もの国の選手が日本に来て、ここ日の出キャンパスに集まり、激闘が繰り広げられました。

海外の選手との交流、その試合の様子を観る機会や海外選手と戦える機会があるということは、学生にとって非常に大きなチャンスでもあり、迫力あるパワフルなプレーを見られた方がテニスの魅力に気づき、テニスの楽しさを知れるかもしれないと思うと、遠い地から足を運んで頂いた各國の選手に敬意と感謝でいっぱいです。また、普段日本に居てあまり話す機会が少ない英語でのコミュニケーションなどもでき、テニス以外の面でも良い刺激を沢山頂けました。

海外の選手が来てくれるるのは当たり前ではありません。日本人としておもてなしの心を忘れず、一人一人が100%で海外・日本の選手を歓迎し、今大会以上にホスピタリティ溢れる大会にしていかなければと思います。

国際大会報告

女子ダブルス優勝:吉川ひかる・富永菜(亞細亞大学)



▲女子ダブルス表彰式の様子



▲優勝後チームメイトと記念撮影



▲女子ダブルスファイナリストと記念撮影

期間中イベント「車いすテニス体験」ゲスト:齋田 悟司選手(アテネパラリンピック金メダリスト)



▲車いすイベント集合写真



▲齋田選手と一緒にダブルス



▲学生も車いすテニスを体験

学生運営の様子



亞細亞大学国際テニストーナメント2025

Asia University International Open Tennis Tournament

男女大会要項 (予定)

日程

予選	2025年3月上旬	シングルス 64名
本戦	2025年3月上旬	シングルス 32名
		ダブルス 16組

賞金ブレークダウン US\$15,000

試合方法 ●トーナメント方式(ベストオブ3セットマッチ6ゲームオール後タイブレーク採用)

会場 ●亞細亞大学 日の出キャンパス テニスコート(ハードコート10面)

〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井1449-1 TEL042-588-5817 FAX042-588-5817

■男子 優勝

2007年 第1回	シングルス イム・キューテ(韓国)
	ダブルス ユ/ザン(中国)
2008年 第2回	シングルス 伊藤竜馬(ミキブルーン)
	ダブルス 近藤/佐藤(アイシン精機/フリー)
2009年 第3回	シングルス イ・チュハン(台湾)
	ダブルス 佐藤/イ(フリー/台湾)
2010年 第4回	シングルス 井藤祐一(空旅ドットコム)
	ダブルス 佐藤/イ(橋本総業/台湾)
2011年 第5回	東日本大震災のため中止
2012年 第6回	シングルス 内山靖崇(北日本物産)
	ダブルス 近藤/イ(アイシン精機/台湾)
2013年 第7回	シングルス 近藤大生(アイシン精機)
	ダブルス 関口/エイドリアン(三菱電機/スロバキア)
2014年 第8回	シングルス ディ・ウ(中国)
	ダブルス 松井/小澤(ライフ・エヌ・ビー/北日本物産)
2015年 第9回	シングルス 仁木拓人(三菱電機)
	ダブルス 吉備/仁木(ノアインドアステージ/三菱電機)
2016年 第10回	シングルス ハン・ヤン・チ(台湾)
	ダブルス 吉備/松井(ノアインドアステージ/ASIA PARTNERSHIP FUND)
2017年 第11回	シングルス 高橋悠介(フリー)
	ダブルス 長尾/奥(エキスパートシズオカ)
2018年 第12回	シングルス ヌーゲン・ダニエル(アメリカ)
	ダブルス 仁木/今井(三菱電機/イカイ)
2019年 第13回	シングルス 今井慎太郎(イカイ)
	ダブルス 仁木/今井(三菱電機/イカイ)
2020年	新型コロナウィルス感染拡大に伴い開催中止
2021年	新型コロナウィルス感染拡大に伴い開催中止
2022年	新型コロナウィルス感染拡大に伴い開催中止
2023年	新型コロナウィルス感染拡大に伴い開催中止
2024年 第14回	シングルス ヤン・ハイ(中国)
	ダブルス リ・ジェムン/ソン・ミンギュ(韓国)

■女子 優勝

2012年 第1回	シングルス 米村明子(島津製作所)
	ダブルス 鮎積/手塚(フリー/ミキハウス)
2013年 第2回	シングルス ユ・ミ(韓国)
	ダブルス ハン・カン(韓国)
2014年 第3回	シングルス 井上雅(テニスラウンジ)
	ダブルス 波形/米村(北日本物産/島津製作所)
2015年 第4回	シングルス スー・チー・ウェン(台湾)
	ダブルス 岡村/米村(橋本総業/島津製作所)
2016年 第5回	シングルス フレッチャ・マグダレナ(ポーランド)
	ダブルス 横谷/宮原(早稲田大学/TEAM 自由が丘)
2017年 第6回	シングルス セクリッヂ・サラ・レベッカ(ドイツ)
	ダブルス 小堀/高畠(橋本総業)
2018年 第7回	シングルス リー・ソ・ラ(韓国)
	ダブルス リー・キム(韓国)
2019年 第8回	シングルス ダリア・ロバテスカ(ウクライナ)
	ダブルス 米原/荒川(明治安田生命/プロ・フリー)
2020年	新型コロナウィルス感染拡大に伴い開催中止
2021年	新型コロナウィルス感染拡大に伴い開催中止
2022年	新型コロナウィルス感染拡大に伴い開催中止
2023年 第9回	シングルス 川口夏美(河田ローンテニスクラブ)
	ダブルス 井上明里/TSAO,Chi Yi (橋本総業ホールディングス/台湾)
2024年 第10回	シングルス メーガン・マナセ(アメリカ)
	ダブルス 富永菜/吉川ひかる(亞細亞大学)

詳細は…国際テニス連盟(ITF)

<http://www.itftennis.com/procircuit/>

日本テニス協会(JTA)

<http://www.jta-tennis.or.jp/>亞細亞大学テニス部公式サイト <http://www.asia-tennis.com/tournament/index.html>

※2023年7月現在の予定。大会開催時期は申請予定です。



美しい時代へ——東急グループ



もっと、歩きたくなる渋谷になる。
きっと、新しい出会いがひろがる。

桜丘エリアに、渋谷サクラステージが誕生。
駅周辺のつながりがぐっとスムーズになり、渋谷はさらに、
働く人、暮らす人、訪れる人が交わり、めぐり歩いて楽しいまちに。
私たち東急グループは、一人ひとりが
自分らしいしあわせを実感できる明日へ向かって、
これからも進みつづけます。

 東急グループ